明治三十九年三月二十三日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾六號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百九拾六號目次

本會春季懇親會豫告

春暖の好時節と戰勝の新春に乘じ來四月初旬本會春季懇親會開催致すべく候場所及時日餘興等は目下評議中に屬し候間追而再告すべく今は只豫告に止め申候也

明治三十九年三月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを旨とも希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして吾等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相謀て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を懇かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて每月一回同志の婦人集ひ談り一會を設けて私立大日本婦人衛生會といひ每一回集會を開き學識ある人々に衛生上諸般の講義談話を乞ひ互に相研究し傍ら之を筆記して冊子を編し會員に分ち聊か同胞の爲めにすあらんと茲に本會の旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其賛成を仰ぐことゝしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條 目的 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し[illegible]●第三條 本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會の節には姓名族籍[illegible]

[illegible]

第十條 本會に左の役員を置く 會長一名 副會長一名 [illegible] 評議員二十五名、本部幹事若干名●第十一條 會長副會長幹事評議員は隔年三月の[illegible]

[illegible]

●督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし

事務所

東京市牛込區上宮比町八番地 私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子
（いろは順）
幹事　鳩山春子
仝　羽田三耕子
仝　岡田鎔子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦教子
仝　石川貞子
評議員　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四丹子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人　南部艮子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會に於て講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤逵吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
醫學博士　●色川圀士君
ドクトル　●伊東祐彦君
醫學博士　●飯盛挺造君
理學博士　●伊藤隼三君
内科十字　●石川千代松君
醫學士　●岩井禎造君
醫學士　●石塚久君
醫學士　●牧瀬雄一君
貴族院議員　●石原久太郎君
醫學博士　●濱尾新君
法學博士　●濱田玄達君
東京　鳩山和夫君
醫學博士　●荻原彌四郎君
新潟　●芳賀榮二郎君
小兒科　●長谷川泰君
醫學博士　●長谷川一詮君
醫學博士　●小原稍之君
醫學士　岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
步兵中佐　●佐藤逵次郎君
醫學博士　●緒方正規君
醫學博士　●堀内文次郎君
　　　　　●土肥慶藏君
　　　　　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅孫君
醫學士　●櫻田一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山杞齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　●高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　田代[illegible]助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
前西藏社長　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　●高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彦郎君
二等軍醫正　●星野篠光君
醫學士　●宮本傚君
三等軍醫正　●横井忠國君
大日本…會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部堅男君
醫學士　●長井長義君
醫學博士　●中濱東一郎君

醫學士　●黒田玄通君
醫學士　●栗木所務君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松鉄三君
醫學博士　●長川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘綸君
醫學士　●山根正次君
岡山　●山川春二君
醫學士　●丸茂文良君
衛生試驗所技手　●丸山良四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　布施正國君
臺灣民政長官　●後藤新平君
元東京大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺川畑作君
醫學士　秋元槻尼君
子爵　足立與如君
軍醫總監　●新井寛君
ドクトル　●富士川游君
ドクトル　●土谷古芳君
高崎醫會長　水原余次君
産科婦人科　●久保田山藏君
ドクトル　●佐々木政吉君
醫學博士　●淺田鋭次君
醫學士　●朝倉文三君
醫學博士　●朝山六君
ドクトル　秋月聰太郎君
高崎　●佐藤三吉君
醫學博士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
醫學士　佐伯理一郎君
ドクトル

醫學博士　●榊順次郎君
醫學博士　●櫻井保三郎君
醫學士　●桐淵恒次郎君
醫學博士　●桐村鋭次君
醫學士　●北島楠造君
醫學博士　●北川多一君
ドクトル　●木下乙二郎君
醫學博士　●北島正中君
醫學士　●北里小太郎君
醫學士　●三浦柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●宮本誠之助君
醫學博士　●我作仲吉君
小兒科專門　●三島通良君
理學博士　●三宅秀君
醫學博士　三浦信太郎君
醫學博士　●土方久元君
醫學博士　●島村俊一君
伯爵　弘田長君
醫學士　川高昂君
醫學博士　須田哲造君
ドクトル　遠山椿吉君
ドクトル　●木村徳衛君
醫學士　森川休太郎君
醫學士　●能川三男君
醫學博士　●波多野三郎君
醫學博士　●吳秀三君
醫學博士　●ヒ、ウ、ーース
ミス　●コ、ーッ
ミセス　●菊池[illegible]一君
ドクトル　●橋本武郎君
醫學博士　●真宮左洋君
醫學士　●土川卯三郎君
ドクトル

野蠻時代に傳へたる
惡魔の像



名家演壇

疾病の話

ドクトル　富士川游君　講話
佃速記事務所員　速記

病氣の御話を極く摘みまして、大約五六回の間に御話をしたいと、私は考へて居ります、皆様も御承知の通り衛生法と云ふものには、公衆衛生と、自己衛生との二つがあるので、公衆衛生と云ふ方は、傳染病、或は他の國民間に行はれて居る病氣を豫防する方面であります、是れは政府、或は公共團體、或は市町村その他自治團體のすべき當然の仕事であつて、吾々自分一己がしやうとしてもすることが出來ぬのであります、自己の衛生と云ふ方は、自分で自分の身體を護るのである、それならば、どうして自分で自分の身體を護つていくか、詳しく其事をやらうと思ひますれば、皆さまが皆な御醫者におなりにならなくばならぬ、皆さまが皆な醫學の智慧をお持ちにならなくてはならぬと言はなくちやなりませぬしかし是れは言ふべくして行ふべからざる事であるそれならば醫者にならなければ自分で自分の身體を護ることが出來ないかと云ふと、決してさうでない自分で自分の身體を護るには極く僅かな知識で宜しい、僅かな知識と云ふのは、病氣と云ふものはどう云ふ者であるか、たゞこれだけを知るのであります病氣がどう云ふ者であるかと云ふ事が頭に入つて居れば自分で自分の身體を護るのは容易であります。病氣とはどう云ふものである、極く簡單な問題であります、けれども、病氣とはどう云ふものであらうかと、昔の人が考へた事から、今日の人の考へることまでをズッと調べて見ますと、此の簡單な問題の答へも大分複雜であります、それ等の事は是れから私が回を重ねて申上げる中に大體は分らうと思ひま

すが、今日は其の發端だけを御話して置きたいと考へます。

一　疾病とは何ぞや

何れの文明國でありましても、其國の初まりました時には野蠻の有様でありまして、其頃から無論病氣はあつたのでございますけれども、其時の人が病氣をどう云ふ風に思つて居りましたか、病氣の事を說きますには是れから一番先に御話せねばなりませぬ日本の極く昔、即ち神代の時、今日の亞非利加の土人、印度の土人、或は歐羅巴の古代、希臘、羅馬の以前すべて野蠻蒙昧の時代にありて、病氣をどう云ふ風なものと思つて居つたかと云ふことを調べて見ると、惡魔があつてそれが「わざ」をして病氣が出來ると云つて居つたのであります、我國の事は大抵御存知でありますから、印度あたりの土人の事を御話いたしますると、一番多いのが惡魔の「わざ」で病氣が出來る、斯う云ふのであります、其の惡魔の形はどう云ふものであるか見ることが出來ない、併し或場合に於きましては惡魔の形を拵へた所がある、

（圖を示す）

是れはシンガーレンと云ふ所の野蠻人の拵へた惡魔の面の圖であります、中央に一つ大きな惡魔が居つて、其傍に、こちらに九つ、こちらに九つ、兩方で十八の惡魔の形がある、此の傍に在る十八の惡魔はよく調べが着きませぬけれどもフロイデンベルグと云ふ學者の研究では、此の十八の惡魔は各々腸窒布斯の各時期の病狀をつくる惡魔であると云ふことであります、さうしてシンガーレンの野蠻人は病氣に罹つた人間を入れる部屋を拵へまして、其處へ病氣に罹つた人間を入れる、其の部屋に小さな棚を拵へて此の惡魔を祭り御供物をする、其前に病人を跪坐して、醫者といふべき人が其の惡魔の面を被ぶつて病人の周圍を廻る、廻ると病人が眠る、即ち意識を失ふ、是れは今日我國でも流行する催眠術と云ふもので眠る、さうすると家に連れて歸るのであります、此の面の名はマハコーシャクシャと云ふので、

此の面を拵へて今者病氣を治して居るのでありますけれども、面の由來を調べて見ると、これは全く病氣を拵へる惡魔をあらはしたものである

（圖を示す）

こゝに示すのは、身體の中に痛みを拵へる惡魔であります、斯う云ふ者は今日の野蠻人が持つて居るばかりでない、歐羅巴の南東方に住めるチゴイネルといふ土民は、斯う云ふ形の惡魔を作つて居る

（圖を示す）

之には面白い話がある、昔アナと云ふ美しき女王が居つた、其の女王が自分の意思に反してロソリコと云ふ惡魔の王樣と結婚をして、子供が九人出來た、其の九人の子供が悉く病氣をこしらへる所の惡魔である、さうして其の九人が互ひに結婚をして多數の子孫が出來た、其の子孫にも多數の子孫が出來た爲に今日病氣の種類が斯の如く多くなつた、斯う云ふ話であります、九人の子供はいろ／＼な事をする惡魔でありまして、中のリリーと云ふ惡魔は粘液性の惡魔で、魚の形をなし頭は人間で長き毛が生へて居ります、此の惡魔が人間の身體の諸處から入つて又身體から出て來る、さうすると毛だけ身體の中に殘る、是れが殘ると粘液性の病氣が起る、即ち加答兒赤痢のやうな病氣が出來る、又九人の中ポレコスロー（圖參照）と云ふ惡魔は鳥のやうな形をして首のやうなものが附いて居る、是れは虎列剌、黒死病、あゝ云ふ猛烈な流行病をやる惡魔である、又斯う云ふ（圖參照）兎のやうな惡魔もある、これはカイ島土人の惡魔として居るものである

一體惡魔と云ふものはどんなものか見えぬのでありますけれども斯う云ふ風に拵へて居るものもあります。日本でも御承知の通り、昔からさう云ふ事を言ひ、又實際形を拵へて居る

（圖を示す）

是れは藤原隆能の描きました繪卷物の中にあるのでありますが、足利の前。鎌倉時代、今から凡そ五六百年ほど前に疫病の形が出來て居る、斯樣に疫病の

患者が臥て居つて、上から疫病神が何か指圖をして居る徳川時代になりますと

（圖を示す）

斯ふ云ふ風なものが來て疫病を起したと云ふのであります、天保十四年にこんな星の惡魔が出て、それが爲に病氣を起したといふ、是れは近い頃の話でありますが、ズッと古い所にゆきますと、土佐光長の描きました繪卷物に餓鬼と稱する物がある

（圖を示す）

斯樣に大變痩せたものでいろ／＼惡い事をし、いろ／＼病氣を起す、是れはお產をして居る所でありますが、人間に一々餓鬼が附いて居つていろ／＼な事をして居る、さう云ふ風に惡い事をする惡魔が居ると云つたのである

其次には死んだ人の魂魄が病氣を拵へる、もう一つは動物が活きた物の身體の中に入る、又動物でない豆とか或は木片、骨などが入つて來ると云ふのもある、それから病氣は神樣の罸を受けてやるのだと云ふのもある、又惡魔使ひがあつてそれが病氣を起すと云ふ說もある、もう一つは身體の臟腑が動くのである、是れは希臘の方でも昔から言ふて居ります、チッブエーの印度土人は膽汁が循環すると其所に痛みを起すと信じて居る、それから山に一種の神靈な物が居つて、之に逆ふと病氣が起る、是れは西洋にも澤山例がありますが、日本では鞍馬の僧正坊、愛宕山の太郎坊、比良山の次郎坊、秋葉山の三尺坊、彥山の備前坊、大山の伯耆坊、上野の妙義坊、嚴島の三鬼神、大峰の前鬼後鬼、常陸の筑波法印、その他にも澤山ありますが、さう云ふやうな物が天下の名山には必ず居る、さうしていろ／＼の惡い事をする、又その天狗の力で病氣も出來る、斯う云ふ事を信じて居つたのであります、それから、天狗のやうな人間に近いものでなくても、例へば狐とか蛇とか云ふもの、それをいぢめると病氣になる、狐をいぢめると狐が附く、或はいぢめなくても附く、犬がつく、狸がつく、種々な物が人間に附くと云ふことを

信じて居つた場合がある、又人から人にうつる場合がある、例へばあの奴は憎い奴だと憎むと憎まれた方に病氣がつくのであります、或は又死んだ人の魂がつくと云ふ說もある、さう云ふ風に何れの國でも人の知識の極く幼稚な時代には、病氣と云ふものを惡魔の所爲とか神樣の罰とか云ふやうに考へて居つたのであります。

所が病氣の種類に依りますと、神樣の賜としてあるものがある、バーニーと云ふ島で疱瘡を神樣の賜と信じて居つて、御婦人などは顏に疱瘡の痕のあるのが一番の美と稱せられて居る、從つて疱瘡の痕のあるのが美人の一の資格になつて居るのであります そこで疱瘡をやる神樣は、善い神樣である、日本などで謂ふ疱瘡の神樣も善い神樣で、

（圖を示す）

是れが日本支那などで謂ふ疱瘡の神樣で、其本態は三人の姉妹の美人であります、

今日は是れだけに止めまして、此次から其の病氣の御話をしたいと思ひますが、今のは病氣の起りをどう云ふ風に人が考へて居つたかと云ふことを御話したので、其の考へが今日に及んで、今日吾々が病氣と云ふものをずつと調べて見て、其の病氣はどう云ふものである、其の病氣が人間にどう云ふ風な害になるのであるか、此の病氣がどう云ふ風にして人間に出來るものであるか、其の病氣が人間に入るにはどうして入る、其の病氣が人間に附いた場合には男と女、子供と老人、野蠻人種と文明人種、瘠せた人と肥えた人、金持の人と貧乏な人等に依てどう云ふ風な違ひがあるかと云ふことを御話しますと云ふとあとはそれを皆樣が御自分で御考へ下されば、大抵御合點の行くことゝ考へます。僅かな智識で御自分の身體を御自分でよくお護りになるやうにしますには、どうしても病氣とはどう云ふものである、其の病氣が身體に入つて來る場合にはどうする、此の病氣は大約どんなものである、それが男女に依てどう違ふ、貧富に依てどう違ふ、年齡に依てどう違ふと

云ふことを引くるめて御話いたしましたならば衛生と云ふことの本當の實行が出來るやうになるのであらうと思ひますから、此次からはさう云ふ考を以て御話を續けるつもりであります、今日は盛なる新年の御會に御招待を得まして、そうして高い所で下らない御話を致しましたのは誠に恐縮に堪へぬ次第でございます……

新潟支會講話

●産科衛生に就て

産科婦人科院長　高橋辰五郎君

産科衛生の中で最も人々の注意を願はねばならぬ事は死産兒の問題でムい升二月の初旬新潟市内の諸新聞は三十七年度の本縣の衛生統計中で一ヶ年の死産兒が四千五百十三人に達して居る事を掲げられて是れは姙婦の不攝生又は産婆の不良に因る事で有るから産科衛生の發達を講ずるは今日の急務で有ると注意されてムいましたが全く其通りでムい升

日本全國の上から見ますると死産兒の數は明治三十五年に十五萬七千七百八人で出産百人中九人四分五厘の割合になつて居ります若しそれが獨逸抔で有ると死産兒は出産百人中三人一分二厘になつて居るから我國も此割合で有ますと五萬二千六十八人で澤山な譯で丁度十萬五千六百四十人丈は無益に死んで居る事になつて居ります毎年十萬餘人宛無益に人命を失ふて居るのは驚く可き事でムい升産科が進歩致し助産婦が完全になれば容易に此丈けの人命を救ふ事が出來るのでムい升

獨逸抔では毎年産科衛生の進歩に從て死産兒が減少して居ります然るに日本では之れと反對に毎年驚く可き割合を以て死産兒が増進して居り升此の増加致しますのは産科衛生や助産婦の進歩には關係がなく死産兒の屆出が漸次に勵行せらるゝからでムい升

私の考へでは現在では屆出てをしませんで秘密に床下などへ埋めて置く死産兒が尚ほ多數で有らうと存じ升

夫れから或地方では産兒を殺して死産兒とする所が多くあらうと思はれます格別に多數の死産兒は殺されたものに外ありません又此れと反對で特別に小數なれば死産兒を屆け出でない爲めでムい升是れから我國の死産兒の統計の初めからの數と(プロエス國)の死産兒數其れに我國各縣の死産兒數に大差ある統計を御話し致し度いと思ひ升

日本各年死産兒(年々增加す)

	死産兒	出産百人中ノ死産兒
明治十九年	五八、三五〇人	五人五五
仝二十年	六〇、八六五	五人七五
仝二十一年	七七、四九五	六人六一
仝二十二年	八五、二五一	七人〇五
仝二十三年	九一、七五二	八人〇一
仝二十四年	九一、三八九	八人七四
仝二十五年	一〇五、五五二	八人〇四
仝二十六年	一〇八、八七一	八人四六
仝二十七年	一一三、一六八	八人五六
仝二十八年	一一七、二一五	八人六〇
仝二十九年	一二七、二二三	九人〇三
仝三十	一三〇、三三七	八人八九
仝三十一年	一二五、八四一	八人四一
仝三十二年	一三五、七二七	八人九一
仝三十三年	一三七、八九七	八人八六
仝三十四年	一五五、四八九	九人三八
仝三十五年	一五七、七〇八	九人四五

獨逸(プロエス)に於ける死産兒(年々減少す)

一八九七年(明治卅年)	四〇、三一七	三人二六
一八九八年(仝卅一年)	四〇、三九七	三人二一
一八九九年(仝卅二年)	四〇、四六九	三人一九
一九〇〇年(仝卅三年)	三九、九九三	三人一三
一九〇一年(仝卅四年)	四〇、七一三	三人一二

日本各地方の死産兒の數の差異

	死産兒	
茨城縣	八、三七六人	一八人七六
埼玉縣	七、五二三人	一五人六四
鳥取縣	二、〇九〇人	一四人九六
千葉縣	六、八六四人	一四人三五
栃木縣	四、四六九人	一三人〇三
福島縣	五、一九六人	一一人九九
新潟縣	五、三八三人	八人一九
富山縣	一、一七三人	三人八八

鹿兒島縣	五七五人	一八七一
熊本縣	五四五人	一八六六
沖繩縣	一人	〇八〃一
全　國	一五七、七〇八人	九八四五

我國に死產兒の統計の出來ましたのは明治十九年が始めてムい升其時分は屆け出が少なかつたため出產百人中に五人五分五厘位で其後ち段々と增加して參たので今後何年迄で增加しましようか年々十何萬と云ふ人命を際限もなく損失せしむると云ふのは實に嘆はしい事でムい升十九年から卅五年まてゝ死產兒統計百七十二萬二千三百十二人になつて居ります此外にも非常に多數の屆け洩れが有り升けれども此數丈けても獨逸の樣に三分の一の少數に止むる事が出來たならば明治十九年からで百十四萬八千人の生命を救ひ得たので今日ては我國の人口が優に四十萬の上に達して居つた事て有ませう此の如く既往及び將來の懼く可き人命の損害は產科の進步と助產婦の完全を俟たなければ決して免るゝ事の出來ぬ事てムい升

古來未曾有の大戰爭と稱せられました日露戰爭は一年八ケ月間で我陸海軍人の損害は病死者を合計しても七萬人以內で新潟縣では三千三百十八人でムい升之れを一年間の死產兒數に比較しますると恥かしい程の少數でムい升

產科の不幸なる事柄は死產兒の外產婦の死亡することと終身の病氣となることと小兒の眼を潰ぶす事抔澤山にムい升小兒の眼病は初生兒眼炎と申しまして獨逸などでは全國三萬七千人の盲目者が有つて其中の一割は此眼病によりて失明したのだと申します我國ては極めて澤山の失明者が有らうけれども統計が有りませんから分らぬのは殘念の至りでムい升產婦の死亡に就きましては產褥熱と難產の死亡者が我國の統計年鑑に出てムい升併し產褥熱は產科に不熟練な醫者て有るとマラリヤとかチフスとか腹膜炎とか診斷せられて有ることが多くムい升から產褥熱となつて居るのが極めて少なうムい升他の難產の死亡者は一目して產に關係の有る事が明瞭て有るから統計と實

際とは大した違ひが無からうと思はれます

元來産蓐熱は腸チブスの様な傳染病でムいまして分娩の取扱ひの際に不潔な事をして豫防消毒の法を施しません時には澤山に發するものでムい升

夫れ故に我國の舊産婆と云ふものゝ取り扱ひました産婦には産蓐熱が澤山に有る譯になつて居り升統計が不完全で有ますから實際の數は知る事が出來ません獨逸抔で有ますと近頃産科の消毒が年々に嚴重になつて參りましたから段々と産蓐熱が減じて居ります夫れで一萬人の産婦に就て勘定をして見ますと難産の死亡者は十八人一分で年々敢て格別の增減はないけれども産蓐熱の數は千八百八十三年（明治十六年）が三十人六分翌年が三十六人七分で段々に減少して千九百年が十三人千九百一年（明治三十四年）が十九人と云ふ事になつて十九ヶ年間の平均が廿二人八分になつて居ります我國に於ては屆てのないために産蓐熱は少なくなつて居りますが難産の死亡者は隨分に多くなつて居ります此難産の方は恐らくは大した間違の無い所ろで産蓐熱も實際は此割合て多く有ると考るのが差し向き適當で有らうと存じます

【獨乙ザクセン】

	産婦一万人中ノ死亡者産蓐熱	難産
一八八三年（明治十六年）	三〇人六	一七人五
一八八四年（仝　十七年）	三六人七	一九人九
一八八九年（仝　廿三年）	二七人三	一八人四
一八九四年（仝廿七年）	二〇人〇	一七人一
一九〇〇年（仝　卅三年）	一三人〇	一七人三
一九〇一年（仝　卅四年）	一九人〇	一七人七
平均十九年間	二二人八	一八人一

【日本】

	産蓐熱統計上の實數		難産統計上ノ實數	
明治二十三年	（一、七六九人）	一一人六	（四、四七三人）	二九人三
明治三十三年	（一、六七九人）	一〇人七	（四、五二一人）	二九人〇
仝　卅五年	（一、八八五人）	一一人二	（四、七八六人）	二八人六
平　均	（一、七七七人）	一一人二	（四、五九三人）	二八人九

統計を致して見ますると斯様の成績でムい升が産蓐熱が實際よりも少數で有るべきことは屢々述べました通りでムい升それで難産の方の死亡者が獨逸に於ては一萬人中平均十八人一分で有るのに日本では廿八人九分で有るから産蓐熱と此割合と致し升と一萬

中の産褥熱が三六人四分て一ヶ年平均百五十八萬餘の分娩中に五千七百六十一人丈けの死亡者が有る譯て難産の死亡者を合計一萬三百五十四となり升是れが目下我國の分娩に因する死亡者と見做可きものてムい升若し此數を獨逸の平均數と同樣に減ずる事になりますと難産の死亡が二千八百六十五人産褥熱が三千六百九人合計六千四百七十四人て差引三千八百八十人丈け産婦の死亡の減ずる事になるのてムい升現在我國に於て分娩の爲めに毎年一萬人以上死亡するものが有ると云ふ事は他の統計からも證據立てる事が出來ます元來我國の死亡は一ヶ年に男子が四十七萬六千人女子が四十五萬五千人位て概して總ての病氣に於て女子の死亡が少ないもので有るけれども只分娩に關係ある泌尿生殖器病と云ふものに就て女子が九千九百八十人即ち凡そ一萬人程多くなつて居ります

此の如く分娩のために凡そ一萬三百五十四人の死亡者がムい升が産科の進歩と助産婦の改良によりまして獨逸の樣に減少せしむると致しますれば三千八百八十人即ち毎年凡そ四千人宛は産婦の死亡を少なくすることが出來ます

多數の人の苦痛を救ふと云ふ事や統計上に不明瞭な疾病死亡を減少せしむると云ふ事を勘定に入れませんでも一ヶ年十萬餘人の死産兒と凡そ四千餘人の産婦の生命を救ふと云ふ事が産科衞生の必要な問題てムい升十萬人の産婦を無益に失ふと云ふのは實に容易ならぬ事柄てムい升が救ひ得可き四千人の産婦を空しく死亡せしむと云ふ事も極めて重大な不幸て有り升

一家の主婦たる婦人又は人の母たるものは一人と雖も極めて大切なもので有る其人の死亡のために一家の衰亡を招く事が決して少なくはない一ヶ年四千人宛の人の母たる産婦を救ふ事は我日本國の利害から見ても人道の上から見ても決して等閑に附す可からざる問題て私共が熱心に産科衞生の進歩を圖ろうと云ふ所以てムい升世の中には産科衞生の問題を極め

て輕蔑するものがムい升が實に心得違ひの事と存じます

產蓐熱も初生見眼炎も傳染病でムい升が他の傳染病て有ますと一人の死亡でも大騒ぎをして豫防だとか消毒だとか盡力を致します然るに產蓐熱などに至りますと年々間斷なく多數の生命を奪はれて居りますけれども世の識者とか衞生家とか云ふ人でもトント知らんで濟して居ります今新潟縣にありまして統計上毎年凡そ七十一人の產蓐熱死亡者が有る事になつて居りますが是れは無論屆け洩れが有るので獨逸の例を推測を致して見ましても一萬の分娩中に平均二十二人八分と致しますと縣下の平均六萬四千九十八人の產婦中では百四十六人ですが難產の割合に產蓐熱が多くあるとしますれば二百三十三人丈け有る事になります只今我國の產科衞生の有樣では實際是れより多く有らうとは思はれますけれども

當分二百三十三人と致して置きまして之れに難產のための統計上の死亡者二百十一人を加へて四百四十四人となり升これを他の傳染病及び恙虫病等と比較して產科衞生が新潟縣下に於て如何に必要な問題であるかと云ふ事を示したいと思ひます但し統計年鑑に現はれて有り升縣下の產蓐熱死亡者は全國の二十五分の一難產の死亡者は二十一分の一に當りて居り升

	產蓐熱	同分娩一万中	難產	同分娩一万中
明治三十二年	七五人	(十二人九)	一九二人	(三四人八)
仝　三十三年	七六人	(十一人七)	二二六人	(三五人一)
仝　二十五年	六四人	(九人一)	二一六人	(三〇人九)
平　均	七一人	(十一人〇)	二一一人	(三二人八)
	獨乙の例を推算二三三	(三六人四)		

明治三十七年中	赤痢	チフス	チフテリー	恙虫
死亡者	一一九人	一三六人	一七四人	八六人
(患　者)	(一、一一七人)	(五八五人)	(六五七人)	(二七九人)

斯樣に產蓐熱を二百三十三人と致しますと總ての傳染病よりも多くムい升獨乙の例によりて一万人中二十二人八分縣下一個年百四十六人と致しましても頗る多數なものでムり升恙虫は當時新潟縣衞生上の大問題でムイまして之れがために新潟縣の醫會、縣廳

の役人、夫れに東京の大學、傳染病研究所の學者先生方迄でが大騷ぎをして居られます是れは珍らしい病氣で有ると云ふ好奇心に驅られて居るからの爲めでもムい升が婦人が人類生存の爲めに分娩と云ふ非常の困難なる敵と戰て難產又は產褥熱と云ふ名譽の負傷や戰死をすな譯でムイまして人間のあらん限りは絕ゆる暇のない次第でムイ升然るに我國に於ては學者、有識者、當局の官吏又は醫師社會に至りましても殆んと知らぬ顏の半兵衛で濟して居られ升實に不都合千万の事と存じ升併し或人は產褥熱や難產は全國に亘りての問題で有る何も新潟縣計りが心配をしたり騷いだりするに當らないと申すかも知れません併し是れは甚だしい心得違ひでムイ升新潟縣で恙虫などに大騷ぎをするのは好奇心の爲めも有るが併し不明の病源を發見して發明者と云ふ名譽を得たいと云ふのも主なる動機となつて居ります然るに分娩と云ふ大戰爭の負傷者戰死者に對しては我日本に於て實際如何樣の有樣であるか之れを豫防し救濟しますのは如何樣にせんければならぬかと云ふ事は未だ一も世の中に明らかになつて居りません新潟縣の醫師又は當局者に於て日本全國に先んじて發見者となりて其救濟法を講ずることは實に名譽でも有り必要な事でも有らうと存じます

其上新潟縣は醫學上の事に於て曾て日本の率先者として醫師は越後の特產であると迄で賞贊せられたものでムイ升近頃に至りましては新潟縣よりは餘り名譽の醫學家も出來ませんで殆ど特有產物を失ふて居り升嘆かはしい事と云はねばなりません此際我新潟縣は一番奮發をして產科衛生の上計りでも發見者救濟者の名譽を奪ふして先輩諸氏の名譽を恥かしめぬ樣に致さなければならぬと思はれます

併し我縣に於きましては產科衛生の一部で有ますする助產婦教育が幸に全國第一に位しまして給費生を教育して居る學校が六つ給費生が八十名一ケ年の金額が三千百二十圓になつて居り升けれども是れ計りでは決して產科衛生を進めまして產褥熱や難產の死

亡數を減少せしむると云ふ譯には參りません只進歩せない計りではムイません只今の有様では實地の監督奬勵が欠けて居りますから折角新らしい教育を受けました學校の卒業生が尓々に退歩致しまして概して無學無職の舊産婆と選ぶ所が無い様になつてしまひます是れでは折角費用を給したり心配して教育をしたりする事が丸で無益の骨折となつて仕舞はせんかと私共大に心配して居る所で有ます

然らば産科衛生の進歩を計るには如何様の事が必要であるかと申升に第一我國に於きましても産科の醫術が他の醫師の方よりも非常に後れて居りますから之れを進歩せしめます事も大切でムイ升が最も關係が廣く有て是非とも忘れてはなりません事は助産婦の教育を完全にして取締りを嚴重にする事でムイ升

我新潟縣で申しますると學校は兎に角ムイ升けれども産婦を收容して實地分娩に就て教授する事が全く缺けてムイ升夫れから開業の産婦に分娩の消毒法を守らしむる事、産褥熱や難産の死亡者又は初生兒眼炎の患者を屆出てしむるてと産婆に業務上の日誌を送らしめ時々檢閲をなす事抔が必要でムい升是れは皆獨逸に行はれて居る制度でムイ升

恐しい事は餘り専門的になりますから申しませんが縣下の産婆學校の補助費の制度に就て一言申して見度いと存じます

現在縣下では三千百廿圓の補助費を新潟、長岡、高田、新發田、小千谷、柏崎の六産婆學校に分けて給與して居りますが尚ほ場合によつたら佐渡岩船口も補助を與へて産婆を教育した方が宜敷と云ふ事を聞く様て有ますが是れも甚だしい間違てムイ升、

元來産婆學校即ち助産婦教育所と云ふものは教育上に於ける師範學校と同一で縣立を以て立派なものを拵ひまして必ず所屬の産科院を設けて實地の産婦に就て分娩の處置を十分に生徒に教へる事が必要でムイ升そうでムイませんと卒業生が開業をして始めて産婦や小兒に就て實地の稽古をする様になりますから多數の人の生命身體に危害を加へまして取り返し

の附かぬ禍を生ずる樣になります夫れ故に助產婦教育上の產科院と云ふものは師範學校の附屬小學校よりも大切なものでムイ升新潟縣に於ては最早產婆學校の數を增す必要がムイません其費用を轉じて實地產婦を收容する事が最も大切でムイ升

獨乙などの例により升と獨乙全國五千八百五十万の人口に對し四十二の助產婦教育所がムイまして平均凡そ百四十万に教育所が一ヶ所の割合で生徒には實地の產婦に就て十分に練習を爲さしむることになつて居ります

新潟縣下に於きましては現在千三百二十人（内新修業助產婦二百九十五人舊產婆千〇二十五人）の產婆がムイ升が一人、三十ヶ年宛、業務に服する事が出來ると致しますと每年四十四人宛補給すれば宜敷勘定でムイ升夫れて縣下の人口は百七十六万人で一ヶ年の出產總數が六万五千人助產婦一人が平均五十人の分娩を擔當する事になつて居り升

右之次第でムイ升から新潟縣に於きましては將來一ヶ所の助產婦教育所に五十名乃至六十名位の生徒を收容して十分の學理と實地とを練習せしむる事が適當て且つ緊要なのでムイ升

そう致しますれば始めて人の生命健康を保護する事の出來まする立派な助產婦が出來まして日本全國に率先して產科衛生の模範を示す事が出來るのでムイ升

助產婦の問題は產科衛生の本源でムイまして日本全國一ヶ年十餘万人の產兒の生命と四千餘人の產婦の生命を救ひまして其上百六十万人の產婦に就き分娩の補助を致し無數の苦痛困難を救ふ事でムイ升から我々國民と致しましては一日も等閑にす可らざる事でムイ升　（完）

新年餘興

講談

●日本海大海戰

松林伯知述

我が日本開闢以來、日露のお戰ひ位ひ大なる戰爭はございませぬ、海陸ともに容易ならぬお戰ひ、陸には參謀總長たる大山元帥閣下が滿洲軍總司令官とならせられ、すでに遼東半島より御進みに相成り、遼陽のお戰ひ、沙河の大戰、奉天の軍さ、敵の二十万を遂に全滅せしめて、流石のクロパトキンも今は羽をもがれて行く所を知らずと云ふ、實に奉天の大敗は露國の致命傷でございます、さればクロパトは露國へ喚還されて面目を失はれ、あとはリネウイッチと云ふ御方が司令官と相成つて今一と戰爭と云ふ、我が軍に於ても今一度戰ひをして吉林哈拉賓までも陷れ、敵を全滅せんと勇士の方々、其の御勢ひは凄じいもので、上に傚ふ下、下士卒に至るまで實に大したる御勢ひであつた、なれども何十万と云ふ大軍を、海外隔つてお出しになつたことだから、心にかゝるのは敵の海軍、一旦は東洋艦隊を全滅なしたれども、バルチック艦隊が將に東洋に來ると云ふのだから、我が海軍將士の方々も、「バルチックが來やうとも何が來やうとも全滅させるは今の時にあり、バルチック來れッ」と御勇氣熾んでございます、先方も東洋の對島海峽で全滅されやうとは思はぬのでございます、ロヂエストウエンスキー……大層手數のかゝる名前だが、此の御方が第二艦隊司令長官第三艦隊の司令長官がネボカトフ……私共には名前を呼ぶのさへも困難でございます、中々加藤左典厩嘉明と云ふやうには參りませぬ、此の方々が四十雙の軍艦を揃へて根據地を出發すると云ふ時に、露國皇帝陛下はクロンスタットへ行幸なされて、必ず東洋に航しなば東郷艦隊を全滅せしめ、太平洋の全權を握つて浦鹽斯德に渡るべしと仰せられた時に口提

将が一委細心得奉ります、吾等東洋に航しますれば必ず東郷艦隊を全滅せしめ、仁川に於て沈没いたしましたワリヤーグ、コレーツの復讐を致しますから御安心あらむことを、若し東郷艦隊を全滅し能はずんば生々再び歸らず」と誓つたが到頭歸られない、皆な捕虜になつて仕舞つた、さてバルチック艦隊は根據地を出てリバーウ、リバーウからポートサイドポートサイドからペリーム、ペリームからコロンボコロンボからマドラス、マドラスより新嘉坡、新嘉坡からカムラン灣、根據地より旅順までの里數が一万二千七百二海里、浦鹽斯徳まで一万三千八百三十一海里と云ふのでございますから對島海峡まで一万二千海里、日本の里數にして六千何百里と云ふ所を四十隻の艦隊がボカン〳〵と乘込んで來た、此のカムラン灣と云ふ佛蘭西の領地までやつて來たが、是れより韃靼海峡に進まうか、宗谷海峡に進まうか、津輕海峡に進まうかと評議になつた時に、第二艦隊主力艦隊ばかりでは危いに依て第三艦隊と共に對島海峡を衝いて浦鹽に向ふべしと決定いたし、カムラン灣を出發に及んで、太平洋へ廻るやうに見せかけて對島海峡へ向つたのは、ロ提督の一の計策でございます、尤も此の海戰に於て露國の勝利にてもなれば日本は非常な御困難を被るのでございます、所が我が日本には、伊勢の大神あらせられて、當日は神風強く吹出したと云ふ說もございます、神風ばかりでなく五千万同胞も力を入れてバルチック艦隊を全滅せねば止まぬと、五月二十七日には同胞擧つて苦慮いたして居りました、畏多いことに主上へも宮中にても大勝利の御祈りを遊ばされたと云ふ、されば神風吹出したに相違ないと云ふ御說もございます、是れ今に始めぬことに致して、彼の元の忽必烈が二十万の大軍を以て筑紫に押寄せた、折しも弘安四年閏七月、勢ひ鋭く吹出したる伊勢の神風、敵の二十萬の大軍を乘せる船を覆し、助かりたるもの僅かに千二百人、其内千百九十七人の首を切りたるから殘りたるは三人となる、此の三人を元へ歸した、忽必烈

之を聞いて大に憤つたが、其後は日本に冠をなさなかつたと云ふ、眞やもつて我が日本は、海に陸に連戰連勝、一度も敗を取つたことはない、然るに今回は露國の海軍、如何なることありとも日本に敗られてはならずと、流石はロ提督の率ゐたる四十隻の艦隊、二十六日に濟州島のあたりに現はれて、是れよりして日本海へ入らうと云ふ、我が艦隊に於ては、豫ねてより待受けたることなれば、睡る目も眠ずに御訓練を遊ばし、東郷閣下上村閣下、片岡閣下三須閣下、出羽閣下瓜生閣下を始めとして、各將軍の方々佐官の方々、我が日本一萬五千の海軍の方々、卒や來れと待構へる、畏多くも各宮殿下にはそれ〴〵御所屬の御艦に乘され給ひ、今にも敵艦來りなば、一擧の下に沈め呉れむと、平然として御出遊ばす、三笠艦には東郷司令長官御坐乘、上村閣下は出雲に御坐乘に相成り、片岡閣下は橋立に御坐乘、島村閣下は磐手に御坐乘、瓜生閣下は浪速に御坐乘、出羽閣下は笠置に御坐乘、武富閣下は秋津洲に御坐乘、

東郷(少將)閣下は嚴島に御坐乘、又假裝巡洋艦は指揮官として小倉少將其任に當られ、率ゐられる艦に於ては、第一番に日本丸、日光丸、春日丸、熊野丸臺南丸、臺中丸、香港丸、亞米利加丸、八幡丸、大仁丸、平壤丸、京城丸、信濃丸、備後丸、佐渡丸、滿洲丸、韓崎丸、元來是等は軍艦ではない、俄かに軍艦となつたので、戰ひを遊ばすほどの艦ではないが、殘らず來れと云ふのでございますから全體を合しまするも中々容易ならぬことでございます、敵に於ては是れだけの艦が殘らず集まつて居らうとは夢にも知らぬて、ロ提督はクニャージスワロフと云ふ艦に乘つて是れが一萬三千五百十噸、それからイムペラートルアレキサンダー、一萬三千五百十六噸ボロヂノ、一萬三千五百六十七噸、オスラビヤ、一萬二千六百七十四噸、シソイウコリキー一萬四百噸その外ナワリン、アドミラルナヒモフ、ドミトリドンスコイなんと云ふ變なお艦でございます、ウラジミルモノマフ、スウエトラーナ、ゼムチユーク、ア

ドミラルウシヤーコフ……どうも名だけでも私共には覺えられない、アリヨール、インペラートルニコライ一世、ゲネラルアドミラルアプラキシン、ビエードウイ、それに假裝巡洋艦でございますノ、驅逐艦などを合せまして四十隻の軍艦、單縦陣となつて乘込んで參りますが、我が艦隊に於ては、敵の様子は如何あらんと、二十六日に鎮遠でございますノ或は松島だのと云ふ艦が敵の様子をお探りになる、殊に速力の早い和泉艦が哨艦となつて、所謂物見となつて御進みになつたが、濟州島の附近で初めて敵を發見いたしましたから、直様無線電信を以て本隊に通ずる、然る所飽くまで敵を誘致せよとの御傳令でございますから、和泉艦を始めとして鎮遠松島等の諸艦は、敵艦と接觸を保ちつゝ御退きになる、敵艦に於ては、なアに一戰艦隊だらうが二戰艦隊だらうが三戰艦隊だらうが、對島海峡には十六隻しか艦がない、更に驚くことはないと云ふ、是れは支那人が噓の報導をしたと云ふ說でございます、支那人を使つて段々調べると、「日本對島海峡には澤山船ありませぬ、敷島、朝日、富士、あとは出雲に磐手、八雲鎮遠、嚴島そんな艦ばかり、安心なさる宜しい」それ故に正しく左のみでないと思ひきや、我が艦隊は全力を盡して待構へて居る、三戰艦隊に於ては敵前一萬米突、乃至七千米突づゝ離れて退いて來る、然るに和泉艦は、十分に敵を引附けて、我が艦隊の手練を現はして敵艦を驚かし與れん、此處までお出、水雷進上とか何とか云つて敵を引附けて參る所へ、向ふより致して病院船の土陽丸と云ふのがずつと乘込んで來た「是れは容易ならぬ、土陽丸が來た／＼危險いから早く信號を……」と云ふので、土陽丸に向つて「敵艦眼前に在り」と信號したから土陽丸舳を消して引返して仕舞つた、するとまたやつて來たのは陸兵千三百人を乘せた運送船、和泉艦を見ると、陸軍の軍人方が一度に「海軍萬歳々々々」と呼はるから「海軍萬歳どころぢやない危險い／＼」と言つたつて聞えはしない、信號々々と言つてもう間に合

はない、仕方がないから手信號てと言ふので、バルチック艦隊が見えると云ふ信號をした、云ふと一同驚いて仕舞つて　ナニツ、バルチック艦隊が向ふに見える、それは大變だ、常陸丸の二の舞は恐入る、艦長‥‥艦長、敵が眼前に迫つたさうでございます艦長「ナニ敵が‥‥ヨシ全速力ッ‥‥」斯うなつては仕様がないからドン／＼逃出す、到頭運送船を逃がしてお仕舞ひなすつた和泉艦、飽くまで敵艦を引附けて、十一時十二時一時と云ふ頃になると、今まで隠れてお出に相成つたる三笠、朝日、富士、敷島を始めとして其他の諸艦、戰闘旗を浪風に飜へし堂々として現はれ出て、敵艦の行路を壓迫する、之を見るとロ提督膽を潰して「斯くまで日本艦隊が潜んで居るとは思はなかつた、嗚呼神よ、神は露國の海軍を惠まれざるか‥‥」此時神が空中から「唯今留守てござる」神から拒絶を蒙つた、斯くなる上は是非に及ばずとロ提督の乗られたるスワロフが先づ發砲する、是れに續いて其他の諸艦、一時にドッと砲門を開いたから、其の凄じきこと天地も崩れむと思はるゝばかり、我が艦隊に於ては第一番に淺間が戰闘力を失はんとしたから、據ろなく八代艦長が艦を操つて御退きになるのを始めとして二三の軍艦傷けられたりと雖も、敵隊隊のスワロフは第一番に檣折れ艦橋破れ、且又艦體に傷けられた、間もなくボロヂノも僅に倒れんとした、之を見るより我が艦隊に於てはアレキサンダー望んでお撃ちになつたから是れも將に沈沒なさんとしたり、見る／＼間に敵の戰闘艦五隻、巡洋艦五隻對馬海峡の藻屑とならんとしたロ提督は進退こゝに谷つて、據ろなく驅逐艦に乗移られ御逃れに相成らんとした折柄、我が彈丸の爲に重傷を負はれたが、後に漣艦に發砲せられて再び重傷を負はれたと云ふことでございます、此方は我が艦隊、夜の五時まで戰つて、一度海上を御退きになると、入り代つて日本の驅逐艦隊、海雲、東雲、村雨、朝霧、陽炎、明有、霰、曙、朧、白雲などゝ云ふ艦を始めとして水雷艇隊を合して六十餘隻、敵

艦の四面より蝗の如く、競ひかゝつて攻撃する、第三艦隊司令官ネボカトフはロ提督が負傷してから全艦隊を指揮をして居たが、此の夜の攻撃に撃沈せられたのが戰鬪艦五隻、巡洋艦八隻と云ふので到頭二十何隻と云ふものは此處で沈られて仕舞つたから二十八日の朝は情けない有樣でございます、二十八日の朝まだき、漣艦に於ては敵を追撃せんとて航進中、敵艦を發見いたしましたから、さてこそ敵よ唯一撃と、砲門を開いて續けさまに撃出した、是れぞロ提督の乘つて居るビエドーウイと云ふ艦だ、然るにビエドーウイに於てはもう堪らなくなつて「もう日本の艦と戰ふことは出來ぬ、白旗揚げる宜しい：：白旗揚げい「白旗などはござらぬ「白旗が無ければテーブル掛でも宜い、早くせい、斯う彈丸が來ては堪らぬ、早くせい〳〵」水兵が食堂へ駈込んでテーブル掛を剝して來て檣へ揚げる、そこで漣艦長がお船を寄せられ、士官にお會ひになつて「正に日本艦隊に抵抗せず降伏せらるゝか「斯くなつたら巳を得ませぬ、我が艦隊は餘程沈没しましたか「幾らだか數知れぬ「オヤ〳〵、左樣な事になりましたら最早是れまで、併しアドミラルが坐乘して居りますから願くは鄭重に御取扱ひを願ひたい「ナニ、アドミラル：：「左樣、ロ提督でござる「ロ提督が乘船して居らるゝとな、ウム、大勝利だ、敵艦隊は全滅せしと雖も、ロ提督の行方知れず、さては浦鹽に遁れたと思ひしが、今我が手に此船を捕獲なしたるは實に愉快だ」と是れからロ提督の傍らに來られると、幕僚の人々は顏の色も變つて居る、ロ提督は餘程の重傷で横臥になつて居られます、漣艦長が「提督：：如何でございます：：提督「ウーン：：ウーン」と言つて居るが、最早迚もいかぬと自分でも覺悟して居られた樣子 漣艦長「宜しい、委細承知した、提督は此の艦にお置き申して、其他は漣艦へ乘移られるやうに」と一同を捕虜にして漣艦に乘せビエトーツイにはロ提督の外四人のみを乘せ、直ちに副官其他の方に命じて、皆な軍刀を拔いて居つて敵艦に出合つ

たら、敵の將校一人も殘らず斬つて仕舞へ「宜しい」と云ふので皆な軍刀を拔いて立つて居る、一人の露スケが「それは何てございますナ「是れは日本の捕獲した時の規則て、若しお逃げにならうとすれば首を切るのでござる「ヘエ……左樣て、難有うござる」御禮を言ふ程でもありませぬが、是れから漣鑑はピエドーツイを曳船にして參ります、所が幸ひにも敵艦にも會はぬて、折よく明石艦に出會ましたから共に力を戮せ佐世保軍港へ引揚げた。

此方磐手艦が欝陵島のこなたへ來られると、圖らずも四隻の敵艦を發見したから直ちに發砲をする、それに續いて三笠、朝日、敷島、八雲、出雲等の諸艦が現はれて敵の艦隊を包圍した、敵に於てはもう覺悟をして居るか、ネボー將軍は御自分の乘つて居る船へ殘らずの將校を集め「事こゝに及んでは最早如何とも致方がない、露國のザーに對しては相濟ぬが人命の重んずべきを知つて日本に降伏するに贊成の者は右の手を擧げろ、又飽くまでも戰はんと云ふ者は左の手を擧げろ」と言ふと殘らず右の手を擧げたが、中の三四人は左の手を擧げた「貴公は何て左の手を擧げる「何てと云ふて、露國は大國て日本は小國だ、其の大國が小國に降參すると云ふことはない吾等は如何な事があつても降參しない、艦と運命を共にする「イヤ其は匹夫の勇なり、艦は黄金を以て造れば何隻にても出來る、人命は黄金を以て買ひ難い「イヤ何と言ふても國の耻になるから右の手は擧げない、他の人は右の手を擧げる宜しい、吾等は左の手を擧げる「よし、他の者は殘らず右の手を擧げたるに、それに反對するならば仕樣がない、吾々が降參する前に反對者は海に沈めて仕舞ふ「ナニ海に沈める、それならば宜しい右の手を擧げる……」是れては何にもならなくなつて仕舞つた、そこで各艦とも白旗を擧げたから、我が艦隊より山縣中佐殿、東郷中佐殿が敵艦に御乘込になつてネボー將軍に面會し「貴艦は全く抵抗力を失つて居るか「如何にも水、彈藥、食物等も缺乏いたし、大に機械が損じて

迚も軍さは出來ぬ、降伏いたすより外ござらぬ「然らば日本の佐世保軍港へ引かるゝか「如何にも「宜しい、ソレ露國の海軍旗を引卸して、日本の海軍旗を擧げい」と云ふと忽ちに日章旗を引上げる、三笠艦上に在つた東郷閣下が之を御覽になつて「ヤ愉快ぢや〳〵露國の軍艦が殘らず日本の軍艦旗を揚げた大日本帝國萬歳、大日本海軍萬歳……」それに續いて各艦に於ても共に萬歳を三唱いたしましたから、其聲水面に轟き渡つた時に、流石のネボー將軍も「實に御威勢盛んなことでございます……」其他の將校水兵も思はず頭を垂れる中に、ニコライ一世に乘込んだ日本の軍人方が、日本海軍萬歳と叫んだ、すると小さくなつて居た露國の水兵も「大日本海軍萬歳……「コレ〳〵何が日本海軍萬歳だ「何がと云つて捕虜になつたら無事に本國へ歸れるだらう、是れが平和の源てございますから日本海軍萬歳、露國捕虜萬歳……」捕虜萬歳と云ふ奴があるものか、勢ひ盛んに朝日の御旗を輝かし、佐世保軍港へ御凱旋になつたと云ふ大海戰のおもかげだけ、詳しき御話は吾々の企て及ぶ所てございませぬ、且つ御倦厭を虞れ之にて御免を蒙ります。



大家談叢

◎恙虫病の病源

東京帝國大學教授緒方醫學博士は法科大學第三十二番敎室に於て開會せる第三回日本衛生學會の席上に於て恙虫病(毛蝨病)の病原研究の結果を發表し其の病源研究の由來を公にせられたり

▲地域及特徴　恙虫病は越後國内にて信濃川、阿賀川、魚野川の川洲及沿岸地にして每歳洪水の氾濫を被る地域を耕作し又はかゝる地域に出入する者に發する一種特別なる急性の熱性病なり其の病症の特徴といふべき點は(一)瘡口と稱するものありて患

者の皮膚の何處かに初めは灸の跡様後には其の痂取れて潰瘍を表はす事あり此の如き瘡口は必ず存在す次に(二)其瘡口附近の淋巴腺が腫れ痛むこと(三)全身の皮膚に發疹する事(四)病中發熱ある事是等の四點は恙虫病の特徴なり其外之に隨する全身の症狀例へば食慾が減少するとか頭痛がするとか便秘があるとか等の種々の症狀を伴ふものなり越後地方の人民は恙虫病(俗間にて單に本病を蟲と云ふ)と云へば其の如何なる病氣なりやを知らざるはなく古來よりある病氣なり上述せる地域は洪水の氾濫により汚泥を被り肥料を要せずして作物よく生育すれどもかゝる病氣を發生せる土地なれば富有ある農民耕作せず而して貧困なる農民は危險を冒して耕作し僥倖を萬一にして收穫を求むる狀況にして哀むべき事情なり彼等は此處に赴きて耕作し蟲に刺されて病氣を發生するゝ信じ居るなり

▲季節　恙蟲病は一年の內重に七八兩月に多し六月にもあり又稀に十月にもあり

▲病症　病氣は決して輕からず重態にして腸窒扶斯様の外觀あり仲々容易ならぬ病氣なり

▲死亡率　死亡數は年々によりて異なれども百の病人中に三十餘名の割合にも至ることあり其大多數は農夫にして殊に壯年者は多く如此地域に出入するが故に病氣に侵さるゝ事も從て多數なりとす

越後にては此病氣の慘害は著しきものなり此二年間にて明治三十六年には二百三十名三十七年には二百七十名の罹病者あり而して其中全家族皆之に罹りし家もありといふ程なり

▲毛蝨病　秋田縣下にも是と同一の病氣あり主として雄物川皆瀬川西馬音川沿岸地方に發生す此地方にては毛蝨病といひて恙蟲病とはいはず是亦慘害甚だしきものなり

▲病源　如此病氣は其發生地域は單に新潟秋田の兩縣下にとゞまれるが故に日本全國には普くは知れ渡らざるが如し而して今日迄其病源に關しては未だ之を明にせず即ち何物が病原物たるやそれが又如何

にして人體に入りて如此病症を現はすや不明なり況んは其豫防法をや

▲研究の一　從來恙蟲病又は毛蝨病に關して研究せし者少からず而して其病原に就きては初め明治二十五年には秋田縣の毛蝨病に關し醫學士田中敬助氏は(該病の窠窟地に近き湯澤町の開業醫)東京醫科大學衛生學教室に於て緒方博士指導の下に孜々其研究に從事したり氏の研究によれば血液の赤血球の內外に一種の小體ありて「メチーレン」靑なる染色液にて著色すといひ又氏は引續きて明治三十二年迄其研究の報告を公表したりしが后の報告によれば患者の尿中咯痰中又稀れには瘡口に於て次には同屍體の內臟內とに於て一種の「プロテウム」屬の黴菌を發見したりと

▲研究の二　北里博士は明治二十五年六月に亘りて越後に出張し恙蟲病々原を研究し患者の血液の赤血球內のみに於て一種の異物を發見したり而して此物は染色液にて着色せずと而して此異物は一プラスモヂウーム」なりといへり

▲研究の三　其後中西博士池原和辻兩學士(廿八年)等の研究にては北里博士の發見せし異物は健全なる人間の血液中にも見ることを得べく又他種類の病者にも存する所の人工的製造物にして恙蟲病の病原たるべき性質のものに非ずといへり

▲研究の四　昨年に至りて新潟縣下の醫師より成立せる北越醫學會は熱心を以て恙蟲病の調査に從事し會頭池原學士其他の人々各部門を分ちて調査研究にかゝり斯學上資益する所少からず本年も亦繼續し來れり然れども其病原に至りては未だ之を闡明するに至らず

▲研究の五　此他昨年は傳染病研究所淺川博士及宮島理學士も越後に出張して同一目的を以て研究し本年も亦兩氏の出張研究あり而して兩氏は過日官報紙上に於て其調査成績を公表したり緒方博士等の見る所にては兩氏の記せし所ろ病原の研究上何等恙蟲病に關係ある原生動物を發見せざりしと又患者よ

りして十餘種の黴菌を得て一々其の性狀を記しあるも何れも病原としての關係は具備せざるが如し唯其内一種の黴菌は患者の發泡液に對して凝集反應を現はすが故に恙蟲病患者と何等かの關係あらんかと。云ふに過ぎず（此凝集反應とは黴菌の個々別々なるものが血清液の作用によりて群集塊團をなすことなり）別段重要なる研究と見るの價値なしと爲るが如し

▲該病の影響　新潟秋田兩縣下の農夫が每歳該病に侵されて其幾割は不幸鬼籍に入るの慘はいふに及ばず其罹病の爲め呻吟し稼業を休廢するの損害又鮮少ならず生產上損失大なり加之所謂有毒地域には若し入れば蟲の螫毒を受けるてふ危險あるが爲めに何ほ耕作を試みざる反別廣大にして荒蕪地として放棄せらる若し本病の病原にして發見せられ次て豫防方法も發見せらるゝならば其効果敢て鮮少に止まらざるべし新潟秋田の兩縣に於ては累歳縣下の民衆衞生上此の慘事を救濟せむが爲めに秋田縣にては前述田中學士に數歳縣費補助を以て研究をなさしめ又新潟縣にては先年は北里博士の出張に對し又近頃は北越醫學會及淺川宮島兩氏に縣費を以て調査を囑托したり

▲緒方博士の研究　是れより愈々本題に入り帝國大學に開會せる衞生學會に於いて緒方博士が演說したる要旨と云ふは本年七月下旬同博士は助手石原醫學士を從がへ東京醫科大學よりして恙蟲病々源を研究すべく其の巢窟地なる越後國北蒲原郡安田村に出張し同村保田町の傳染病院に研究室を設けて銳意病原の檢覈に從事し歸京の上其研究を繼續して今日に至る迄間斷なき勤勉は玆に緒方博士石原學士の兩名を以て研究成績を發表する次第となるに至れり而して其黴菌學的部面は石原學士主として擔當し原蟲學研究は緒方博士擔當したり

▲檢查材料　は患者の膿胞潰瘍痂皮血液其外屍體の諸內臟（淋巴腺脾肝臟肺臟腎臟）等なり

▲黴菌の研究成績　にありては患者の螫口部血液等

より十餘種の黴菌を分離し得たるも各患者に通有に非らず而して二名の患者より得たる血清液を以て十餘種の黴菌に試驗したるに二種の黴菌だけは之が爲めに凝集反應を發現したり然るに此二種の黴菌は一患者の螫口部と及血液とより出でたる黴菌なり凝集反應を呈する黴菌は一定條件の下に於ては其病源たる根據を示すものなれども今此成績によれば同一病に二種の病原ある譯合のものに非ざれば以て本病原と親密なる關係ありと云ふを得ず又其兩種の黴菌は動物に對しては毒性を示すと尙此二種以外の黴菌の研究は玆には省略す

▲原蟲の研究成績　是れ今回の研究成績上主腦と云ふべきものなり從來の研究と大に其撰を異にして恙蟲病(毛蝨病)病原なりとの推定を爲し得べき價値ありと云ふさて檢査材料に應じて懸滴標本無染標本原蟲染色標本或は「ヘマトキシリンエオジン」染色標本等を製して顯微鏡下に精檢すれば各患者の血液潰瘍淋巴腺諸内臟膿胞痂皮等には悉く「アメーバ」樣原蟲(「アメーバ」は一種の原生動物—原蟲なり)と其囊胞(「チユステ」)存在す而して潰瘍物質及血液より製したる懸滴標本に於ては小形「アメーバ」の運動するを認むるの外該「アメーバ」樣原蟲の胞子蟲(「スプロツオイト」)を認むべき巨頭棍棒狀又は紡經形を有し該液體中に於て自働を營爲する小體あり染色標本に於て該小體より小「アメーバ」の發生するの狀態を見るべく且つ潰瘍部淋巴腺并に其他の臟器に「アメーバ」樣原蟲芽胞發生と見るべき「アメーバ」及其囊胞の存在するを發見せり云々

◎牛乳代用の誤解

醫學博士　瀨川昌耆氏講話

▲素人は誤つて牛乳を代用す　前回に續いて牛乳の事をモ少しお咄し致しませう、素人の方や醫師の間に斯んな誤解の說を傳へられてありますが、哺乳兒が乳汁を吐くとか、或は下痢するやうな場合には素人

考へて『之れは大方母乳（或は乳母の乳汁）の性質が惡いのだらう、早やく牛乳に

▲毎日の習慣に缺點あり　兎角斯る場合には授乳の分量が多過ぎるか、左もなくば飲ませ方が惡いのです、乳汁の飲ませ方や、乳汁の分量などは前々にもお咄し致した通り餘り手近な事で、母親の毎日取扱つて慣れ過ぎて居る程だからツイ知らず識らず保育上の攝生を缺くに至るのです、爾うして夫れが母親の手に慣れて仕舞うから何うしても其の缺點を發見し惡くいので原因を他に求めるやうになり、實際は母乳（或は乳母の乳汁）の性質が惡くもないに、母乳が惡いのだらうと飛んだ方角へ考へ違ひをして牛乳を代用するに至るが、斯んな早まつた事は深く誡しむべきであります

▲牛乳に耐えぬ兒　哺乳兒によつては人乳の代りに牛乳を飲ませても何うしても吐いて消化されない性質の哺乳兒があります、ソコで種々な方法を工夫し牛乳を飲み習はせやうと百法苦心したが飲ませれば直く吐乳して仕舞うのです、未だ胃腸の虚弱な小兒などは、何うしても牛乳を消化し得ないで、飲ませると吐乳とか下痢とかして何んなに工夫しても腸胃症が癒えぬが斯ういふ場合に人乳を用ゐて始めて胃腸が整ふといふ例は澤山ある、之れ等は孰れも絶對に牛乳が其の哺乳兒に適さぬのであります、孰れの點から考へても牛乳は到底人乳の上に出づることの出來ない事は是迄說明したことゝて充分お分りになつたことゝ信じます、併し尙茲に申上げて置たいことがあります、極く稀れには最良の人乳即ち乳母の乳汁でもつて充分の保育する小兒は、極く能く滿足に育ち乍ら、其の乳汁を飲むと忽ち吐いて何うしても胃へ收まらむ小兒があるといふ報告などのあることがあります、夫れと同じやうな理屈で貰ひ乳をするところが其の乳汁をば吐いて受けない小兒があると云ふ事を耳にするけれど、斯んな例はまづ無いものとして差支へない

▲授乳の原則　次に哺乳兒に人乳を飲ませる方法を

述べませう、之れ迄何人の實驗ても乳汁を多く飲ませ過ぎることは一ッの缺點てあります故に授乳の原則として「成可く時間を置いて飲ませよ」と云ふことがある、此位にしても、泣けば直ぐ飲ませ、抱けば乳房を含ませると云ふ弊害に陷り易いのてあります

●乳汁消化の時間

▲二時間て消化す　總て小兒は善惡に係らず何事にも癖の付き易いものて、母親の取扱ひて何うにても發育さるゝのは實驗上旣に御承知てもありませう、故に授乳してから授乳する迄の時間の如きも小兒をして規則正しき、良き癖を付ければ其れが習慣となるものてあります、哺乳兒は最初の間は二時間目に一回授乳するのが適當てす、何故ならば乳汁は二時間經過なければ全く消化しないものてす、尤も哺乳兒時代に於ける最初の內は胃袋も小さし一度に澤山飲むことは出來ぬが夫れにしても二時間の隔てを置かずに授乳しては決して愛兒のため宜しくないのてす

▲胃腸病を起す　處が今日迄授乳の方法を見るに孰れも時間が不規則て嚴重に此注意を守るものは尠ないのてす、御覽なされ日本の哺乳兒に胃腸病の多いこと、何うして此病氣が多いのかと云ふに乳汁の飲ませ方が不注意て、無暗に時を嫌はず飲ませて、飲み過ぎさせるからてあります、ソコて小兒が斯んな病氣に陷つたとて、罪を乳質の惡しきに歸する事は前にも云ふ通り早計極まるのてす、要するに乳質の惡いのは母親が脚氣症に罹つたとき位のもので、此の病症ある母乳は斷じて與へてはならぬのてす、尙小兒が健康なる體質て　乳汁を飲み過ぎさへせずば胃腸病を起すやうな憂ひはないとお心得を願ひたい

▲睡眠中に授乳すべきか　哺乳兒が生後五六十日間を經過したら其後は三時間目に一回授乳するやうなさい、飲ませて居る時間てすか、夫は充分飲み畢る迄飲ませるが可いのてす、身體虛弱の小兒なら十二三

分から廿分間位は飲續けるし强壯なる小兒なら五六分間て飲止て仕舞ふのもあります、强壯なる小兒なら飲方が荒いので之は前にも說明した通りて詰り飲み止んだらすぐ乳房を離すのです、生後五六十日を經過して追々成長するに至れば夜分は成可く授乳せぬやうに習慣を付けなければなりません「之れ迄夜中でも飲ませたものを、飲ませなければ可愛想だ」と姑息の愛に溺れて熟睡して居る小兒を喚起して授乳する如きは尤も弊害の甚だしきものです、熟睡すれば其儘にして置くが可い、無理に飲ませるのは却つて害となります

▲食物を與へる時期　三時間目に一回飲ませると八度授乳する割合になるが、夜間よく熟睡するやうになると自然に六度位に减ずることの出來るやうになります、生後七八ヶ月(即ち生歯の時期)になつたら乳汁の外に食物を與へて差支へないのみならず普通に發達した小兒なら此の時期になると必ず乳汁の外に何か食物を欲しがるやうになります

●哺乳兒の食物

▲牛乳を與へる時期　牛乳は母乳にまぜて何時飲ませてもさしつかへがないから哺乳兒が生歯時期(生後七八ヶ月の頃)になつて既に食物を與ふべき頃になつたらまづ母乳を飲ませる間に牛乳をまぜて飲ませるがよいのです、總て斯ういふ場合には母乳の回數を减じて牛乳を其代りに飲ませるのですが、之れは哺乳兒が追々母乳を離れて食物へ移る時代に入るはじめてあるからです、尤も生後七八ヶ月位の小兒では、牛乳を其儘では少し濃過ぎます故、一合の牛乳へは湯を五勺位加へ、少量の砂糖を入れて飲ませるやうにするのです(牛乳の飲ませ方は後に詳しく述べん)

▲始めて與ふる食物　去れども母親の乳汁が澤山あれば何も牛乳を交せて飲ませるには及ばない、直ぐに食物へ移つて宜しいのですが母乳を止めた後も當分は普通の食物許りては保育に六ヶ敷いから矢張り毎日二三合位は牛乳を飲ませる方がよろしいのてす

此の時代の哺乳兒に與へた食物は麥汁、之れは濃くないもの、夫れから粥ですが、粥と云ても普通の粥では困りますおもゆ同樣な一寸箸を入れて見ても箸にかゝらぬやうな薄い粥です、其の粥の中へは生玉子の黄身を適宜に混和し、鹽か或は醬油をもつて味を付け、小兒の好むやうに、喰べ可いやうにして與へるのです、斯うして最初は夫れを盃に輕く一杯位盛り午前中に一回、午後に一回、都合一日に二回與へて御覽なさい、無論斯うすると母乳を減ずる事は唯今牛乳を飲ませるお話しの處で述べた通りに減さなければなりません、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分丈は母乳を減じる事と心得ねばなりません先づ斯うして暫く小兒の身體に異狀なきや否や調子を見なければなりません、吐瀉する憂ひもなく、能く消化した大便なら至極結果の善良なるものでありります

▲徐々食物に移るべし　以上の如き方法で小兒の營養が良好なれば漸次に母乳を減じて、他の食物即ち牛乳とか、玉子のお粥とか、麥汁とか斯ういふものを徐々用ゐるようにするのである

●小兒の喰物

▲溶けるやうな菓子　小兒が滿一年近くなると授乳の間にビスケットとかボールの如き澱粉や砂糖で製した菓子を與へて差支へない、此時期になると母親が與へないでも小兒の方から自然斯ういふものを欲しがつて來るものです、尤も斯ういふ菓子類でもゴチ／＼した堅いものや、口へ入れても力を入れて咀嚼かねば消化せぬやうなものでは與へて却つて害になるのです、先づ口へ入れたなら直ぐに解けて仕舞ふやうな性質のものを選ばなければなりません、之れを思はないで、ビスケットなら何んでも宜からうと云ふやうな無責任なことをされては困ります、夫れから飴などを與へたら何うだらうかと云ふ御質問をなさる方もありますけれど之は與へて宜しいのです、牛乳の中へでも溶き交ぜて與へれば尚結構てす近來下山、丹波の兩藥學博士がヂゲストーゼの飴を

搾らへて賣出してあるが斯ういふ飴なら尚可いと思ひます夫れに極く軟かな水飴ですから熱度の低い牛乳でも善く溶けます

●トラホームと渡米者

醫學博士　井上通泰氏談

○渡米者の立往生　近年著しく我邦より米國に渡航せむと欲する者が多くなり從つて其の中にはトラホーム患者も加はつて居る、單に出稼ぎにやつて來られる丈てさへ自分の利益の幾分を蠶食せらるゝ樣な感じがして餘り善い心持て無い處へ、トラホームといふ傳染的眼病まで同道すると言ふのだから、上陸の際に厳重なる檢査を行うてトラホームの徴候ある者は悉くその上陸を峻拒する有樣である、其故折々米國の醫者は苛酷だ、完全なる健康者を捕へてトラホーム患者であると附會けるのだなどゝ彼と此との間に論爭が起ることがあるが、私の眼から觀れば日本の醫者の方が至らないのだらうと思ふ、米國では非常にトラホームに關する研究が盛んて隨つて其學術も進歩して居る、如何初期にあるトラホーム患者と雖も見逃がさない、加之如何に米國の醫者だからと言つて全く徴候の無い者をトラホームだ等と言ふとは無からう、無論或る一時は其麽傾向も有つた樣だが今日に於ては決して其の憂ひは無い。

▲トラホームと言ふ　病氣は之に罹つたからとて直ちに其の苦痛を感ずるものではない、否多くの場合には何等の自覺症もない、是がトラホームの最も恐る可き點で、目脂が出るとか、痛痒を感ずるとかすれば善いのだが、何等の病的現象を觀ない處から自分では「無い」と確信して居ても其實立派にトラホームに罹つて居る者が澤山ある、私なぞも誰かに診て貰つたら實際罹つて居るのかも知れない、呵々。それて自分は完全無缺の健康體て芥子粒程の病毒がないと思ひ

▲先祖傳來の田地　までも叩き賣て渡米せんと欲してはやく／＼と横濱迄勢ひ善く出て來て此所て身體檢

査を受けると豈計らんや「トラホーム患者」たることを宣告せられ、渡米を拒絶せらる丶。行くにも行けず歸るにも旅費は無し、此所に滯留つて治療を受けんにも金は無く進退維谷まりて非常な難義をする事が少なくない、唯地方から出て來る人が金錢上の難義をするのみならず、東京の人と雖も送別の酒宴もして貰つた、餞別品も澤山貰つた、と言ふので今更おめ〳〵歸られもせず、漸やつと縛り上げた振り分け荷物を肩にしたま丶恨めし相に横濱阜頭に今しも煙を吐いて出て行く渡米船を見送らなければならぬ境遇に陷る、これ皆自己の不注意から起る運命である。故に

▲渡米せんと欲する　者は、東京の人にもあれ、地方の人にもあれ、先づ信頼するに足る眼科醫の診察を受け、些かの微候も無いことを確めた上で、田や畠を賣拂ふも善し、送別會を開くも善からう。若し少しても其の微候が有つたならば充分に其地方で治療をうけ顆粒並びに充血の痕跡を全く留めざるに至るを待つて、始めて出發するが善い。地方から出て來る人の中には横濱で檢査があるとさへ知らず、其の場に到て一方ならず驚く者さへあるといふとだから特に地方の人士に對して注意を與へるのである。とは至言にして記者の知人にも是れが爲め半途にして進退共に谷り非常に困難するもの多し誡めざるべけんや

▲神經衰弱豫防法

狩野病院長　狩野謙吾氏談拔萃

▲（一）精神の休息慰安　一度働けば一度息むのは動物一般の原則であるから人も働いた次には息まねばならないが然し働いたり息だりのみでは餘り單調で永い中には調和を失ふから働きと息との間に慰安と云ふ事をせねばならない、空氣と云ふ者は是非なくてならぬもので一には空間の塡充となり一には動植物の營養となる貴重な作用を爲すものであるが扨て目には見えないから自然、人は餘り注意しないが慰

安も一寸こんな樣な工合に餘り心に留めないが是は休息ともなり、活動力の增進ともなり人が生存して居るには是非なければならない者で決して等閑にはされない、然るに精神休息に一番の効めのある者は何かと云ふにそれは睡眠で之に優つたものはない醒て居る時には何と云つても眞の休息と云ふものはない、扨て休息と慰安との關係はドーであるかと云ふに疲勞を起させない樣にする安靜と疲勞を回復する慰安との二つの者は休息と見る事が出來ます、即ち休息の中には慰安があり慰安の中に休息がある譯てあるから休息と慰安を一所に合して言ひ現はせば休養と言ふ文字が適當して居ります。

今休養の輕重と時間の事を圖解で申上げると即ち左の通りて御座います。(目略)

假に休養全體の價値を十とすると睡眠の休養價値は十分の八に當り他の休息慰安の休養價値は十分の二に當ります、八と二てすから睡眠の價値が他の休息慰安よりは四倍の價値が御座います、即ち一時間睡眠すると他の休息慰安を四時間ヤッタ事に當ります

乙圖(略)はカントの法則を標準として私が考へ出した一日二十四時間の睡眠、勞役、休養の時間割を示したもので即ち

(一)午前六時より同八時迄二時間、發聲運動、食事休養

(二)午前八時より同十時迄二時間、勞役

(三)午前十時より同三十分迄三十分、休養

(四)午前十時三十分より午後零時三十分迄二時間、勞役

(五)午後零時三十分より同一時三十分迄一時間、食事

(六)午後一時三十分より同三時三十分迄二時間、勞役

(七)午後三時三十分より同四時迄三十分、休養

(八)午後四時より同六時迄二時間、勞役

(九)午後六時より十時迄四時間、運動、生理的嗜好(良性)

(十)午後十時より翌日午前六時迄八時間、睡眠

但し學生其他學界の人は(七)、(八)、(九)を合せた六時間半より三時間を割て勞役時間に充つるがよろしい

更に(一)、(三)、(五)、(七)、(九)に就て細に述べると

(一)發聲運動二十分、食事三十分、食後休息三十分
出勤の歩行其他の運動二十分、殘餘二十分

(三)休息―笑(滑稽)、談話等適宜

(五)食事三十分、休息三十分

(七)休息―笑(滑稽)、談話等適宜

(九)運動―退勤時の歩行或は他の運動三十分、良性嗜好、訪問、面會二時間、食事三十分、食事後の休息三十分、、發聲運動三十分、笑、滑稽等一時間

以上を適度に分配し實行して土曜の半日と日曜の一日を慰安に使用したなら精神休養の目的は十分に遂げられる事と思ひます。

▲(二)睡眠　睡眠の休養價値は前回に述た通りでありますが一晝夜の三つ一つ眠つて居る樣では一生涯の三つ一を無駄に暮して仕舞ふ道理て誠に無益な事てあるから驗しに眠らず居やうと云ふので三晝夜眠らずに居つた揚句の果は大熱病になつたとの話がある如何なる人にしたところで睡眠せずに居られる道理はない、然るにヤレ、ナポレオンは睡眠は三時間であつたとか、ヤレグラッドストレは四時間であつたとか千人萬人に一人あるかなしかの非常な人傑の例を引出して彼も人なり我も人なりと力味出して睡眠を輕ずる英雄連中は學生などになか〳〵多い樣でありますが是はさるも甚はしで實際のところ是等人傑の樣に勤勉で多忙で暇がない事であるならば猶更人よりも睡眠せねばならない、勉強家や多忙な人と睡眠は多くは仲がわるいのが通例でありますが然し是は間違であります、若し多忙で時間の都合がわるく一度に七時間も八時間も床に居られずば時間の分配を都合して夜と晝と二度に睡眠してもよろしい次第で實際左樣な人は世間に間々御座います、次に此睡眠の時間、是は其人の年齢に關係致します、嬰兒は二十四時間の半分以上は睡眠時間で小兒は十時

間位、青年は八時間でも不足に思ひ老人になるとまた夫では多過る、先づ世間の通例は以上の通で御座います、斯樣になつて見ると睡眠時間を何人にも同一に定める事は出來ぬ樣にも考へられるがそれは恰度食物の性質により、活動の多少により又習慣により小食と大食とに分れる樣なもので身體の燃燒作用(即ち新陳代謝)の強弱(強弱は年齢に關係します)次第て睡眠時間に差が生ずるものと見てよろしいのであります、夫故老人の例とか人と飛離れた行動のあつた少數人傑の例を其儘手本としては精神にヒドク故障を起します。

今日のところでは八時間の睡眠と云ふ事は一般の通則となつて居ます、即ち此時間は嬰兒、小兒、老人を除きました所では不足でもなく多くもなく先づ至極適當な時間と思はれます、但し茲に注意せねばならないのは睡眠には熟睡と不熟睡とある事で若し熟睡であるならば八時間でも多い位であるし不熟睡であるならば十時間でも足らない位であります、此處で一寸生理上の試驗の結果を申上る必要があります

(一) 睡眠を始めて大略一時間過ぎると熟睡の極度に達し二時間三時間となると其度を減じて次第に不熟睡に移りそれから數時間を經て目が覺める、

(二) 熟睡の時は丸て大腦を切取つた時の如く精神機能がスツカリ靜止するから並み大抵の音響では目の覺めない、

(三) 不熟睡の時は精神機能が十分には非止して居らない、そこで夢と云ふものをみる、此夢と云ふものは精神機能の纏まつて居らない働きを現はしたものである、それから又不熟睡は音響の刺戟で容易に目が覺る、

前項の三箇條を御覽になれば熟睡が一番能く精神を休めるし不熟睡は又夢を見るとか何か微かな音響を聞くとか云ふ樣なれば幾分か精神が働いて居るので熟睡と比べて休養上の價値に大差があると云ふ事が御解りになりましやう、夫でありますから何分にも熟睡を計る樣に注意せねばなりません、扨其熟睡は

どう致せばよろしいかに就て注意の荒增を一箇條づゝ御話申しましやう、其注意には內部の注意と外部の注意と二つ御座います、內部の注意とは

(一) 精神上に心配苦勞があれば氣を外の事に轉じて忘れる樣にする、

(二) 食量は飽食も惡く空腹もまたよろしくない不消化な物、刺戟性のもの生姜、芥子の類を始め茶、コーヒー等を過してはよろしくない、

(三) 兩便に注意して便祕をせぬ樣、小便を蓄へぬ樣にする、

(四) 運動の不足は至極よろしからず又過ぎるのも愼まねばならぬ、

(五) 病氣は何ても睡眠を妨げるが取分妨げるは神經衰弱に外ないから注意なさい、小兒には蛔蟲を避る樣せねばならない、

外に外部の注意を擧げると

(一) 周圍の騷々しいは極宜しくない何分靜な暗い場所を寢間にするがよろしい、

(二) 寢室內空氣の交換の惡いは室內に炭酸が籠つて身體によろしくない、殊にランプや瓦斯燈などを點して置くのはよろしくない、火鉢に火を置くなどもよろしくない、

(三) 寢室內の溫度は暖に過ぎても冷に過ぎても共によろしくない、

(四) 寢具は四季共に重いものを用ゐず何分輕くて暖かなものを選べ(夏は暖に過ぎては惡い)、

大概こんなものでありますが序に就眠の惡い人の爲に催眠る方法を二三箇條擧げて置ましやう、

(一) 睡眠を催す樣にするには何分腦に血を多くせぬ樣に注意せねばならない、夫には頭を身體よりは高くして寢なければならないが枕は軟かでないといけない、硬いのは頭を刺戟して就眠に害がある、

(二) 呼吸を何分に深く靜にする、是は腦の血を減ずる方法の一てある、

(三) 精神の働きを減ずるのは腦を虛にするから從

つて血を減ずる事になる、それ故一日の仕事を終へて床に入つたならば物事を考へず心の中て乘算の九々でも云ふとか念佛でもするとか或は又唱歌を默唱するとかして慾得の考へを離れると早く睡眠れる、

(四) 若し夏であるならば頭部に冷布を置くなども催眠るの一法となる。

▲運動 精神を使ふ職業の人即ち坐つてる商賈、官吏、學者、學生一般に貴婦人方抔は大槪は運動が足ません是等の人には是非運動をなさる樣に御勸め致ます、然し徒に身體を動かし筋肉を疲らしたとて運動の目的が達したものではないのだから此邊に能く注意しなくてはなりませぬ、今一通り運動の利益、目的及其種類等を擧て見ましやう。

▲(一)運動の利益 一と口に運動を申すしても程度がありまして不足ても過ぎてもいけないから適度にせねばならない、適度な運動は神經の中樞である腦を始めと致まして腹內諸臟腑の鬱血を散じ、精神の機能を盛にし、呼吸を深長ならしめ、心動を强くし體溫の發散をよくし、水の排泄を容易ならしめ、脂肪多過ぎる人の爲には脂肪を燃燒して取り去り筋肉の發育を助けるなど色々な利益が御座います。

▲(二)運動の目的 精神を使ふ職業の人は兎角運動不足の爲腦神經の工合がよくないとか、胃の消化が惡いとか云ふ事は何時もの苦情でありますが扨て其運動不足の理由を伺へば運動時間の少いのと良い運動法のないとの二箇條にある樣であります、一體運動と云ふものは極大事なものでそれが出來ない程身體に故障がない限りは誰でも是非食事や睡眠の樣に一定して毎日々々怠りなくやらねばならねもので御座います、何人にした所て赤ん坊や子供でありました時は毎日母の乳を飲み、十分に睡眠もし、それから遊び方や何かてよく身體を動かして成長發育を遂げたのでありましやう赤ん坊はよく泣きます子供はよく遊びます、此泣くのと遊び方は赤ん坊や子供の運動てありまして是が大に成長發育を助けるのであ

ります、然るに成長して一人前になりますと色々仕事があるとか、ヤレ政治家になりたいとかイヤ事業をやつて見たいとか云ふ希望に驅られて生存上自然の義務である大事な運動を忘れて仕舞ふので中にはあたら青春有爲の蕾の身を無殘と散らす人など隨分多いのは嘆かはしきの至りに堪へない、抑々運動の目的は身體各部の血液を平均し發育の平衡を計るのが重てありますから精神を使うて腦に血を集める職業の人には其血を散じさせる爲めの運動が何より大事て御座います。

▲(三)運動の注意は色々ありますが左の事項の如き取分け大事で御座います

(一) 食事や睡眠の樣に毎日〳〵一定して或る適度な運動をすることゝ雨天には室内運動晴天には屋外運動てコレハ塵埃のない場所を選ぶかよろし

(二) 運動過度は疲勞を覺えて害がある、息切れ、強き動悸、顏色の紅過ぎたり蒼白かつたりするは運動過度の兆候、又競走運動、乘馬、自轉車、ボート、擊劒、柔術の類は疲勞に過る恐あるもの故普通の運動と同一に見てはならぬ、其人の體質を考へて取捨すべし

(三) 食後直に運動するのはいけない、少くも三十分たつた後に行ふべし

(四) 朝飯前に輕い運動を一度して仕事が終つた後又適度に行ふがよろし

(五) 女子も男子と同樣運動が大事然し月經時にはよろしくない

◎感冒と耳の病

此頃は感冒又々再燃して流行性感冒より肺炎を起し易きと同時に耳の病をも併發するよしにて岡田醫學博士の談の大要に曰く

感冒は耳の病に大關係を有す、予が極めて表面的に觀察せる所によりても、耳科疾病の半分以上は感冒より來れるものにて、故に、世人若し此の關係を理解し感冒に對する注意を加へば耳科疾病は著しく減少すべし扨て感冒の耳に及ぼす影響には直接と間接

の二種ありて前者には種々の場合あれども第一非常に暖かき部屋にて發汗し又は厚着をして汗の出づべき暖かき物を食せし者が突然戸外に出でゝ冷氣に觸れんには感冒に罹り易きは何人も知る所なるが其際屢々耳より感冒を引きて鼓膜炎又は中耳炎等の病を起すことあり又は高山に登るに途中峻坂に苦しむで汗をかき絶頂に至りて冷たき風に逢はば時として之が爲め感冒をひくこともあり次に間接の影響と云へば前に述べたる諸種の場合には幸に耳の病を起さずとも感冒の爲め鼻加答兒、咽喉加答兒、氣管支加答兒などを起し爲めに咽喉より中耳に通ずる歐氏管といへるを傳はりて耳に達し爰に耳病を起す事あり斯の如く感冒は耳科疾病の主因をなせば先づ感冒の豫防を第一とし其れには皮膚の抵抗力を強くする爲め冷水摩擦をなし薄着をする習慣をつくり男子なれば酒を飲み女子なれば舞踏を試みて發汗などしたる場合には醉醒を待ち又は汗の收まりし後を待ちて戸外の空氣に觸るゝといふ如き注意最も必要にして昨今漸く春暖を催せりと雖も夜間は風猶肌に寒ければ輕卒の事はならず概して感冒などは嚴冬の節よりも却つて今頃が流行するものなれば心すべき事共なり云々

●何故婦人の齒は脆きか

ドクトル　志村誠麿氏談

肺病に罹ると今にも死ぬかのやうに考へる人が多いが、齒の健不健は直接生命に關係を及ぼさゞる爲め痛む時斗りは無暗に大騒ぎする割合に二本や三本齲齒が出來やうがボロ〳〵缺けて仕舞はうが肺病に襲はれたやうに恐れて治療しやうとする人が少なく誠に冷淡極まる譯であるが天然の齒牙を失つた爲めに間接に身體の營養を害する事を思へば實に齒の衛生に無頓着な人程心を寒らすべきは御座いません、分けても男子より婦人の方が自然に齒牙を害すべき場合が多いから一層御婦人方は齒の養生を大切にするやうに仕たいものです、何故婦人は男子より齒が弱いかと云ふに十一二歳から十五六歳迄の齲齒になり

易き時代を通り越して後も婦人は第一に月經の爲め身體の變調を來し其都度口腔內の唾液を酸性に變ぜしめ琺瑯質を破り齒の骨質を冒すに至らしむるは勢ひ逃るべからざる事である、第二に婦人は懷姙の爲め分娩までの永い月日身體の大變調を來しませう然うすると月經の際よりも一層烈しく口腔內に酸性を增す上に胎兒は生胎後二ヶ月目より齒牙の組織を造るため夫れに要する石灰分を母體より吸收する故姙婦の齒質は爲めに非常に脆弱になつて仕舞ふ、斯くの如く自ら齒の不健康を來す場合の多い婦人の體質であるから婦人は取分け男子より平生齒の攝生を嚴重にしなければなりません、然るに婦人は容色の上から啻に齒の外面を白くするのみの事を務むる者多きも、齒の清潔を保たんとするものは頗る稀れである、啻に齒を白くする事と齒を清潔に掃除する事とは大違ひです、齒を清潔ならしむるには食後必ずブラシ揚枝を使ひて齒牙の間の殘滓を取り去る上に消毒含嗽をする事を先づ第一に心懸けなければならぬので西洋の婦人は他出する時は多くブラシ揚枝を持參し何づれに往つて飲食しても食後必らず齒を掃除する事を怠らぬ程心懸けが良いのです、之れは至つて美風ですから日本でも是非眞似て頂きたい、尙齒牙の營養分を取る事は齒の清潔と相伴はなければなりません、營養分とは石灰質の多い食物を喰べるので過日の紙上にも揭げた芋莖、狗背、鰹節の外に味噌、昆布、海苔等の海草類が齒の營養の主眼の成分を澤山保つて居るから別けても御婦人方は齒の清潔を守る上に斯ういふ食物を程よく召上つたら頗る衞生に叶ふ事と信じます。





質疑欄

●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遅速あるは取調べの都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみなりわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雑誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急きの分は回答せず

質問者　札幌一會員

問一、生後百日位の小兒牛乳にて養育致し居るものの兎角便通あしく困り候處或人の話に麥湯にて牛乳をうすめ或はバタを少しく混ずれば宜しと申され候へ共右は何れも差支なきものに候や伺ひ度候

問二、私事平常至て健かに候へ共二三年前より就褥致せば前頭冷やかに感じ何となく心地あしく眠り兼止むを得ず何か被ひて漸く眠りつき候是は頭中に異常あるものにや又頭を被ふ事は差支なきものに候や伺上候

問三、喫烟のため齒が黒くなりたるを落すよき法無之候や伺度候

答一、牛乳の稀釋法其宜しきを得ざるが爲め小兒の便秘することあり又下痢することあれば常に其便に注意せざるべからず麥湯にて牛乳をうすめるも又よろし普通米、燕麥、大麥小麥等の煮汁犢牛の肉羹汁等を用ゆ便秘するは稀釋の工合が悪しきにはあらざるか生後三ヶ月迄は凡牛乳六合に稀釋料七合五ヶ月迄は牛乳七合に稀釋料五合何れも一日六七回に分與するをよしとす五ヶ月よりは純粋の生乳を與ふるもよろしバタを混ずることは別に害もなからんがよき牛乳なれば脂肪も蛋白質も皆必要の分量がよく調和されてありますから夫れには及びますまい右の點に注意するも矢張り便秘するなれば極めて清潔なる灌腸器にて石鹸灌腸を施さるべし猥りに下痢剤を與ふるはよろしからず全く便秘すると爲めに腦などに影響を及ぼすことなきにあらず注意すべきなり

答二、寒きとき就褥するに頭部は誰れしも出して寢

ますが寒むい爲め小兒などは大概頭を夜具の中にツヽコンで仕舞います巨燵など入れ少しも呼吸の通ふ場所がないと大に危險です左なくとも夜具の中で呼吸した空氣を再三再四呼吸することは大毒で赤ん坊さんの抱き寢などにソウ云ふことをなさると窒息させる患ひがありますが是は多くは一の習慣でありましやう、頭部が冷へてドウも寢られぬなら其室内をよく暖めて御やすみなさいさうすれば頭部を出して寢られましやう夏もぐッて寢る事はない其道理です

答三、喫煙の爲め齒が黑くなつたと申されますが齒の黑くなるのは一ッは性質にもよるもので御婦人方にて喫煙せざるものにも同樣の色を呈するんが澤山ありますから一樣には言へませんが時々齒科醫に就て掃除して御貰らいになるのがよい（ツカリキッた事よと申さるゝならんが）併し素人療治は害があります鹽酸を一寸とうすめ細き木の先へ付け一寸とコスリ直ぐ水で洗へばスグ取れるが是は齒が非常に腐蝕して琺瑯質と云ふ齒を固めて居る緊心なものが忽ちにとれてしまい風が當ッてもヂキニ痛むと云ふ樣になり易いから素人療治はいけません

質問者　地方の一會員

問　年齡二十四歲の女子本年一月結婚體格少し瘦せ方職業教員冬は足部人並より寒く乳房小さく月經少量四日位にて每月二十一二日にあります十五六才より齒あしく今は損じてなきもの二枚穴のあきしもの六枚硬き物はすべて食し得ず夫は年齡二十八才にて小さく瘦たる人にて且飲酒家ですが妊娠する事は出來ないでしやうか

答　前文によりて見ますれば格別に病氣もないようでまづ普通と申してよい夫は飲酒家とは大酒家にや兎も角妊娠するとせぬとは兩方の體格を檢査せねば迚も確かな事は申されません何れの機關に就ても異狀なく大酒家でもなければ一兩年中には妊娠されるてしやう婦人の方足部人並より冷ゆるとは俗に申す冷へ性ですか然るときは妊娠がドウも遲い傾がありますから温泉でも行くなり又は亞硫酸かにすること

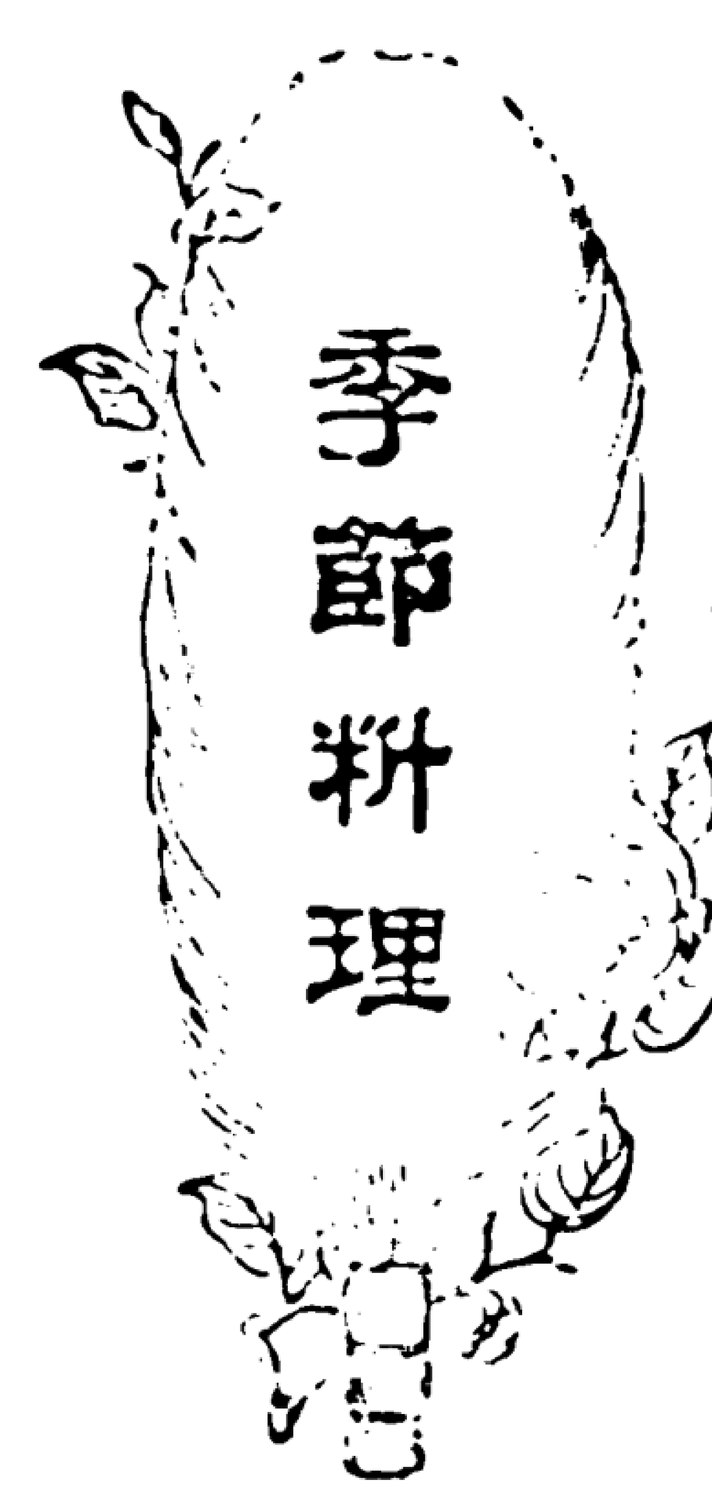
に御注意なさい歯惡しく穴のあきしものは早く「ゴム」なりとツメ込まされは悉く缺損しますゴムをツメて置けば食物の消化にも非常に利益があります月經四日間では少き方ですが時日の一定せるは大によろし夫に餘り大酒をなさらぬ樣にせぬと例令ひ子供が生れても痴呆のものが出來る例があります

質問者　東京一會員

問　牛乳から結核病が傳染するとの事ですが其他の病氣も又牛乳から傳染することがありますか

答　牝牛の乳汁には結核菌を含有する病牛がありますから頗る注意せねばならぬのでそれでありますから煮沸をなさいと申すのです之れが爲めに人に結核病が傳染した例は實に屢々あります其外猩紅熱や脾脱疽、窒扶斯、痘瘡などの牛乳によりて蔓延することは確かであります

●解答記者曰く諸姉御質問が大分たまりまして其内御急ぎの分もあるようですが記者偶々人間なみに感冒の爲め跡は次號に御預りと致し候間右は御諒察下されよ



五もくすし

治庖會本部教場主事　安西こま子

木乾椎茸　五分切り乾瓢
煎り豆腐　薄打蓮根
慈姑　根三つ葉
淺草海苔　土當歸
生姜

●木乾椎茸は、暫らく水に浸しおきて之を纎に切り、之を沸騰湯の中へ投じザットゆでゝ水にとり能く洗ひ、かたく搾りて水氣を切り、鰹節の煮出けと白砂糖と醤油とを以て甘鹹を加減に煮上ぐべし

●五分切り乾瓢は、先づ乾瓢を水に浸しおき、長

きまゝ柔らかにゆでゝ之を搾りて水氣を切り、鹽酢（鹽酢とは鹽を少しく加へたる酢を云ふ）にて洗ひ、酢を切り、之に白砂糖を振りかけ、甘酸き加減に爲しおくべし、

●煎り豆腐　は、豆腐を摑み崩して鍋に入れ、之に澤山の水を加へ、火に掛け、一と沸しして直ちに篩又は目笊の中へ敷きたる布巾の上へ移し、布巾を四方よりたゝみかけおき（急場のときは鍋蓋を重しと爲しおくべし）サテ豆腐の水が切れしとき、之を再ひ鍋に入れ、鷄卵一個を割り込み（豆腐が鍋に焦けつかぬために用ゆ）て攪き混ぜ之に鰹節を濃き煮出汁少々と白砂糖少々とを加へ、金杓子を以て壓し潰しながら攪きまぜ、暫らくして醬油を注し、豆腐がカラ〳〵したる細末となるやうに煎りつけ、平皿の如き器に移しおくべし

●薄打蓮根　は、先づ蓮根の皮をむき、之を木口より薄く切り、暫らく水中に放ちおきし後ち、沸騰湯の中へ投じ、ザット茹でゝ少しく酢を加へたる水の中へとりて之を洗ひ、水氣を切り又之を鹽酢に暫らく浸しおきて酢を切りおくべし

●慈姑　は、先づ皮をむき、銀杏形に切り、之を沸騰湯の中へ投じ柔らかにゆでゝ水にて洗ひ、水氣を切り、椎茸と同じ加減に味をつくべし

●根三つ葉　は、先づ根を切り落し、水にて能く洗ひ、適宜の小束と爲して之を沸騰湯の中へ投じ、一と沸しして裏返し再び一と沸しして直ちに冷水にとり能く冷して水氣を搾り而して鰹節の煮出汁と鹽とを合せたる汁にて洗ひ、程好く汁を搾り、適宜の長さに切るべし

●土當歸　は、皮をむき、長さ一寸程の短册形に打ち、水中に放ちおくべし

●生姜　は、皮をむき、薄く打ちて水にとり、水氣を去り、暫らく鹽酢の中へ浸しおきて酢を切るべし

●すし飯は、本年二月發行本法第百九十五號季節料理欄内に炊き方あり

●偖て壽し飯が出來たるとき、前に拵へおきし具の

中三ッ葉、土當歸及び生姜を除き他の諸具を飯へ斑らなく混じ而して皿又は鉢に盛り其上面に炙りたる淺草海苔を揉みて撒布し又其上へ體裁よく三ッ葉と生姜とを配置すべし

●注意（根三ッ葉の根の利用）三ッ葉の根を能く水洗して水氣を切り、胡麻油少しく鍋に入れ、煮立つを待ちて此中へ三ッ葉の根を投じて煠め、之に水には湯を加へて其水には湯を除き而して之に極く少量の砂糖と削りたる鰹節少々と醬油とを加へ以て煮るときは一つ惣菜を得べし

▲かきあげ

ゑび
火魚
根三ッ葉

●ゑび は、皮をむき、背腸を除き、細かく木口切に爲しおくべし

●火魚 は、三枚におろし、薄肉を除き、小骨をぬき、小なる賽形又は適宜に細かく庖丁を爲しおくべし

●根三ッ葉 は、根を切り捨て能く水洗して五分程の長さに切りおくべし

●衣 は、解し鷄卵（一杯）と饂飩粉（二杯）と水（一杯餘）とを合せ極めてザット攪拌ぜ之を人數丈けの小丼に分ち之に前の種（一人前の種）を加へて混じおき、別に胡麻油を鍋に入れ、火にかけ、油の沸立つを待ちて、風爐の下の口を塞ぢおきて小丼の品を鍋の縁より靜かに流し込み、衣の幾分が鍋の中で流れちるゆへに手早く灰篩にてかきよせ、種の上へかきよせ固めつけて一回裏返し（此時風爐の下口を開くべし）兩面が狐色となるとを度と爲し、大皿へ古新聞紙を敷きし上へあげ、油を切り、あたゝかき中に皿に盛り、おろし蘿蔔を添へ、付醬油と共に侑むべし、但し付醬油の製方は、醬油（一杯）と鰹節の二番煮出汁（四杯半）とを合せ一回煮立しものなり

▲ぬた

蛤　分葱
土當歸　和布
酢どり防風

●蛤は、能く水洗して、少量の沸騰湯の中へ投じザット湯煮を爲し、目笊にあげおくべし

●分葱は、一寸程の長さに切り、水洗して、沸騰湯の中へ投じザットゆでゝ目笊にあげおくべし

●土當歸は、皮をむき、亂切に庖丁をなして水の中へ放ちて灰をぬきおくべし

●和布は、微溫湯にて洗ひ、極めてザットゆでゝ筋及び、惡しき部分を除きおくべし

●防風は、沸騰湯の中へ投じ、ザット茹でゝ直ちに水の中へ放ち、能く冷し水氣を切り、鹽をあて、水洗して、水氣を切り暫らく酢に浸しおきて五分程の長さに庖丁をなしおくべし

●和へみそは、並味噌を能く摺り之に白砂糖を加へ程好く甘味をつけ、次に酢を加へてゆるめ（若し諸品に下酢がきゝおれば酢に代るに鰹節の煮出汁を用ゆべし）而して和布、蛤、分葱及び土當歸の四品の各を酢にて洗ひ此味噌にてあへて皿に盛り、防風を少しく其上へ撒布して侑むべし

●西洋料理法

▲ライスカレー

大匙一杯の牛酪と玉葱一個をみぢんに庖丁せるものとをフライ鍋に入れ、火にかけ、褐色になるまで炙りつけ、之に牛肉又は鷄肉六十目を賽形に庖丁せるものを入れ攪拌ぜながら能く煠め、次に牛肉又は鷄肉のスープ三合を加へ文火にかけ、凡そ一時間半煮て牛肉が柔らかになれば之に皮をむきたる馬鈴薯を卸金にて擦して鍋に入れ、汁がドロ〳〵となるを度となし次に鹽を加へて味をつけ、「カレー」の粉を適宜にとき之を交ぜ終りに牛乳ニ勺を加へ、直ちに鍋を火よりおろし而して米飯にかけて侑むべし

（右は五人前の分量となす）

中外彙報

靑色光の生理作用

瑞西ゼネヴァの醫科大學教授レダルト氏は久く光線の生理作用を研究中なりしが此程靑色光の神經中

樞に及ぼす著しき効果を確め同國齒科醫會に於て演說したる由其の大意を紹介せんに氏の實驗によれば青色光線は神經を殺すの効果あり此効果は短時間の外科手術に利用するを得べし原來各種の色光は夫々特有の生理作用を有す例へば赤は神經刺激興奮の原因たり黄は沈鬱壓服の結果を來し青は神經を沈靜慰安す此の青色光線の生理的効果を齒科手術に應用するには患者を仰臥せしめ面に薄き面帕を覆ひ上に電燈を點じ青色の火屋を懸け患者をして面帕を透して靜かに此青色光を見詰めしむるにあり然る時は數分時の後患者の眼睛は散大し神經は落付きて殆ンど感覺を失ひ恍惚半睡の狀態となる此に於て拔齒切肉其他の小手術を行ふによく疼痛を覺へしめずして之を果すを得べし云々倫敦のミリアードと云ふ醫士も亦同一實驗を試み二十例に成功し八例に失敗したりと

癌腫の原因發見

胃癌を始め乳房癌其他凡ての癌腫に對する研究は數年來世界各國の醫學社會に於て專ら行はれつゝある所にして其原因に關しても議論百出未だ一定の意見とて無かりしに茲に英國醫學會癌腫研究委員博士モンサラット氏は千八百九十九年始めて癌腫より一種の有機體を得爾來今日迄之に對する研究を繼續し居たるが此有機體は外科手術によりて切除せられし潰瘍性ならぬ乳房癌に於て發見せられ其培養動物試驗等を經て遂に之を癌腫の原因に關係あるものとして發表するに至れり氏の此發見にして癌腫の原因を確むるを得れば治療上大なる効果を收むるに至るべく左すれば一切の癌腫は今日の如く豫後の不良を思ふに及ばず容易に治癒せしめ能ふべしと

▲南京虫の病毒媒介發見　リバプールの熱帶地病症科教授ドクトル、ロース氏は南京虫中マラリヤ病毒の媒介をなすもの有るとを發見したりと

▲八種傳染病　昨年中東京府下に於て發生の傳染病其疑似症を合算して患者は三千九百七十四人死亡千五十二人なり之を前年に比較するに患者五百人死亡

二百八人を減少せしが最も多數なりしは腸窒扶斯にて實布的里亞之に次ぎ赤痢猩紅熱ペスト順次之れに次ぐ痘瘡は最も少く虎列刺及び發疹窒扶斯は全く發生なし又同年發生の總患者數を人口に比例すれば人口一萬人に付東京市十四人二分、郡部十七人七分合計十五人二分(但し島嶼は除く)にして又細別すれば市に於ては小石川二三、一、麹町二〇、二、赤坂二〇、〇、牛込一九、七、神田一七、八、麻布一七、四、本郷一五、〇、郡部に在りては西多摩三三、三北多摩二八、三、荏原郡一五、二、南葛飾郡九八、他の郡區は十九人以下なりと赤痢の如きは疑似症を合算し千百二十六人死亡三百十二人患者百に付死亡二十七人七分にして前年に比較して百四十一人死亡七十人を減少せりと

▲流行性感冒の再燃　昨年の十一月末より十二月、一月にかけて一時猛威を振はんとしたる流行性感冒も一時全く其跡を絶ちしに今月に入りてより流行範圍廣くなり孰れの醫師がゝりにも同病患者の數他病患者數に相半ばせる有樣なるが今回流行のものは氣管支炎性インフルエンザとて氣管支加答兒を伴ひ最初卒然惡寒或は寒戰を覺えて發熱を來たし同時に頭痛烈しく全身に倦怠を來たし眼血走り鼻や咽喉に異狀を生じ往々休温三十九度以上四十度近くになり肺炎又は中耳炎を合發す其經過及び性質明治二十三年の暮より同二十四年の一月、二月にかけてのものと相似たり故に惡寒發熱して前記の諸症候の一つにてもあらば直ちに醫師の診療を乞ふべく流行性感冒の素人にも直ぐにわかる診斷法は指頭にて輕く上眼瞼の上より眼球を壓し試むることにて若しこの試驗の際眼球に痛みを覺ゆる時は確かに本病に罹れる徴しにて常の風邪と異なれば一刻も早く服藥して肺炎や中耳炎にならぬ用心せらるべし

▲不良牛乳取締の斷行　警視廳第三部にては市内は勿論郡部に於ける牛乳搾取業者が販賣する牛乳に就て往々不良の物あるよりあらゆる取締法を設けて是を實行しつゝあり右に付昨年十月より同十二月まで

三ヶ月間に於ける東京府下の牛乳の數及び不良牛乳の數を調査せし結果左の如しと

區別	總數	不良牛乳	普通
麹町	三十種	二種	二十八種
神田	五十七種	二種	五十五種
日本橋	百十二種	十九種	九十三種
京橋	百二十二種	三種	百十九種
芝	二十三種	—	二十三種
麻布	七十四種	二種	七十二種
赤坂	十七種	二種	十五種
四ッ谷	三十四種	一種	三十三種
牛込	七十七種	八種	六十九種
小石川	百十八種	九種	百〇九種
本郷	五十六種	五種	五十一種
下谷	五十八種	—	五十八種
淺草	四十八種	八種	四十種
本所	七十二種	九種	六十三種
深川	九十四種	三十三種	六十一種
品川	二十七種	七種	二十種
新宿	三十三種	一種	三十二種
板橋	六十三種	十種	五十三種
千住	十八種	二種	十六種
小松崎	二十二種	三種	十九種
八王子	十二種	—	十二種
府中	六種	—	六種
青梅	五種	—	五種

是に依て見る時は合計千百七十八種の中不良に屬する方は實に百二十六種なりと府下の需用者たるものは豫め注意し置くべき事なり

▲外國に於ける日本女醫　我國の女醫今や既に百五十人に及べるが今外國に於ける本邦女醫中の重なる者を擧れば如左

▲藤田光子女史　元の姓丸橋にして靜岡縣人なり得業後清國上海に開業し居りしが今回浙江省南尋鎭通商病院長として月給二百圓にて聘に應じたりと

▲前島けい子女史　長崎の人にして東本願等の設立に係る浙江省杭州府の日文學堂の校醫たりしも一昨年より同省洪震橋に開業し居留地なる警察醫を勤め一方に於ては自宅に開業をもなし居れるが女史の通信に依れば清國上流婦人の診を乞ふもの益〻增加し行くといふ

▲高橋雄子女史　岐阜の人にして前に明治女學校の校醫なりしが一昨年十月韓國京城漢城病院の醫員に聘せられ其後更らに皇帝の侍醫を拜命して今は兼勤し居れる由

▲福井繁子女史　大阪に開業し居りしも昨年十月獨逸に赴き伯林大學に入學せり專攻は眼科なり是にて獨逸留學の女醫は曩に歸朝せし世良田雅子女史と二人となれり

▲產婆及看護婦試驗　東京府に於て四月六日より產婆試驗を施行するに付き志願者は產婆願書を三月一日より末日迄に看護婦は四月一日より末日迄に東京府廳に差出すべしと又方共に願書並に添付すべく書類は本人自ら作成し又願書には本人の一ヶ年以前に撮影したる寫眞一葉を添付すべし

▲學位授與式　文部省にては去る九日午前九時榊保三郎(文部省留學生)谷口長雄(熊本醫校長)小山龍德(福岡醫大教授)伊東祐彥(同上)金森辰三郎(開業醫)五氏に醫學博士の學位を授與せられしといふ

▲凶作地と惡疫　凶作地に於ける窮民の衛生狀態は是迄の經驗に徵すれば其翌年夏秋の候に際し赤痢、虎列剌を始め其他各種の惡疫流行し其土地の住民は營養不良の結果惡疫に犯さるゝ者續出し非常の慘狀を呈するの常なるにより內務省衛生局に於ては東北三縣下及び其隣接地方には本年は惡疫侵入するならんとの想像にて扨こそ前號記載せし如く昨今の衛生狀態を實地調査して適切の豫防方法を講ずる爲め內野臨時檢疫事務官松崎技師の兩氏が不日特派され調査する筈なりと

▲春季のペスト流行　大阪神戶山口地方に昨今又々ペスト再發し新患者續々發生の傾向を呈せる趣きなるが其理由は鼠族が秋季中は天井裏壁間等の間隙に巢窟を營み棲息せるが冬期に際するや寒さを凌ぐが爲め床下其他に巢換を爲んとて人の住居に近づき戶棚家具等に接觸して病毒を傳播するの結果一時終熄の狀態にありしペスト病の再發を見る次第なり又春季に際すれば前記と反對に巢換を爲すより又もや該

病毒を傳播するものなり云々と某防疫事務官は語れり而して去五日以來ボツ〳〵發生するに至るとは誠心の至りならすや

▲猩紅熱　本年に入り同病稍流行の兆あり神田區及山の手邊にも是又ボツ〳〵發生の模樣あり

▲乘客と船暈　歐州の醫學社會にては航海業發達と共に乘客の船暈にかゝる多きを遺憾とし今回葡萄牙リスボンに船暈研究大會を開くこととなつた、而して其會員一行六百名は獨逸の漢堡より乘船して海路葡萄牙に赴き船中の實地的經驗を以て研究の基礎となす仕くみなりといふ

▲義眼の進步　近着華盛頓の通信は仝市に居住するペシナードなる盲目者が兎の目を用ひて日光を視るに至れるを報せり今其詳細を擧けんに仝人は今を去る事一ヶ年前里人の爲めにライを兩眼に投ぜられ眼膜を燒傷して遂に明を失ひたれば種々專門醫に就き治療せしも更に其の効なかりしが此頃に至り最後の手段として兎の眼膜を用ゆる事を強られ最後の治療を受くる事となり醫師に兎を精撰して其の眼膜を取り患者の眼膜の燒傷せる部分に代ふるに兎の眼膜を以てし眼膜の固着する迄は靜養ずべしとて歸宅せしめしに手術後未だ時日を經過せさるにも拘らず此頃に至り稍々日光を認むるに至れりとは異なれば進みたるものなり

▲看護婦の相場　看護婦の日常相場は是迄折々に高下ありしか今日にては略一定せしが如く乃ち不染病看護婦日當は略特等一圓、一等八十錢、二等六十錢、三等四十錢又傳染病看護婦日當は特等一圓五十錢一等一圓、二等九十錢、三等七十錢なりと

▲醫療業者概數　其筋の最近調査に依れば警視廳管內に於ける醫師の總數は三千百廿八名、齒科醫百五十二名、獸醫八十八名、藥劑師五百二十六名　産婆千二百六十名、製藥者百七名、藥種商千百八十七名整骨醫三十四名、入齒々拔九十一名、鍼灸術一千一名、鍼術四百十五名、灸術二百八十三名等にして醫師一人に對する人口は八百三十三名なりといふ

▲有毒の鍋皿　安樂新警視總監は過日署長會議に五六の要件を訓示せしが其反響の一として不良の飲食物用器を取締る事となり其手初に販賣禁止を命ぜられしは日本橋區銀町篠原方製造の凱旋盃（百分中に鉛九〇以上を含む）日本橋區新葭町三關口方製造の鉛錫フライパン（百分中に鉛五六以上）京橋區檜屋町十四遠藤方外二軒の金屬匙、京橋區五郎兵衛町增田外一軒製造の琺瑯式鐵鍋錫等なりといふ



大日本婦人衛生會記事

●三月總會

東京なる本會は三月三日第一土曜日午后一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校に於て總會を開きたり當日は總裁宮殿下の御臨場を願ひ奉りしも御差支の旨仰せ出されたり席定まるや醫學博士佐藤進次郎君には脫腸の話と云へる演題にてアルコホル漬の實物を示し小腸及大腸の大部分を切除しても治癒したる實例を擧げて演說せられ次にドクトル富士川游君には前回に引き續きて顯微鏡其他澤山の圖畫寫眞等を示して詳細に演述せられたり右終り一同茶菓の接待あり終りに事務の報告あり會計報告は本誌に詳載することゝし散會せしが當日の出席役員の左の如し

出席順

長谷川仲子　田村き代子　濱尾副會長　岸　澄子
岩下ゆか子　鳩山春子　岡田德子　小川孝子
高木鐐子　宮下咲子　三浦敎子　石川貞巾



自明治三十八年三月至仝三十九年二月本支會入退會表

	入會	退會	增減
本會	終身三人、特別四人、通常百〇五人（百十二人）	九十二人	增二十人
新潟	特別十人、通常二十六人（三十六人）	六人	增三十人
山形	特別四人、通常四人（八人）	五人	增三人
宇都宮	特別二人、通常二人（四人）	九人	減五人
茨城	通常六人（六人）	拾一人	減五人
高崎	賛成員一人、特別四人、通常五十八人（六十三人）	七十人	減七人

米澤	終身一人 特別二人 通常三人 六人	十一人	減五人
死亡		拾人	減拾人
不明		二十八人	減卅八人
合計	二百卅五人	二百四十二人	減七人

入退會の統計は左の如し蓋し三十八年度は戰役中に係り從て入退會の頻繁なりしは又止むを得ざる次第なるが之を總計に徴せるに入退會差引に於て七人の減員を見るに至る平時に於ける此現象は尤も寒心すべきことなれども戰役忙偬の際にありて此結果を來せしは決して怪むに至らず寧ろ本會は現在員を引誘して戰爭以外に超然としてよく其の本分を全うしたりと云ふべきなり（尚會員總數等は次號に）



●入會者紹介の方々へ感謝

本會の爲め入會者を紹介せらるゝの諸姉は行住座臥衷心より本會の爲め盡瘁せらるゝの諸姉にして多大の感謝を拂はざる可らず卅八年度に於て本會にては

幹事岡田德子（終身會員貳名）　會員諏訪なみ子（會員拾五名）
幹事三浦敎子（終身會員壹名）

此他一人にして三名以上會員を紹介せられたるものを擧げんと取り調べしに本會には一人もなしとは誠に遺憾の極と云ふべしされば今各支會に於て之を求めん

高崎支會にては星野會長、相川副會長、土谷特賛の外左の諸氏が尤も多く會員を紹介せられたるにてありき

幹事相川はま子（七名）　天利いし子（六名）
會員宮崎よね子（四名）　高崎はる子（三名）

新潟支會に於ては竹山會長幹事中村しけ子女史の外幹事佐柳ちよ子三名田代顧問三名を尤も多しとす

茨城支會にては幹事宇佐美すゑ子四名の紹介尤も多きものなりし



傷病兵寄送帽子總數

自明治三十七年十二月至同卅八年七月二日

帽子寄贈數　八百九十個

一金二百圓　本會より支出　此金百五十三圓十八錢

以上

＊　＊　＊　＊　＊

●寄附

一金二十錢　贊成員　本山捨五郎君

◉本會收支決算報告は各支會の報告を待ち次號に掲載すべし

高崎支會報告

●初會

一月廿一日(日曜日)初會を群馬縣立高等女學校内に開く此日特贊員陸軍三等軍醫正横井忠國君より當日の盛會を祝すと電報あり講師陸軍一等軍醫稻垣眞君全令夫人より祝辭を送られたり右披露式場は戰後の事迚質素を旨とし午前十時半左の次第により開會す

一開會の辭　相川副會長

一唱歌(君ケ代一同唱和)オルガン三橋幹事

一會辭捧讀　相川副會長

式終るや來賓及會員に辨當茶菓を供し當日の餘興に移れり

◉能狂言

卷絹　都筑完啓　岡本寅司　高橋勇造　小川悅司　小川豫一

三人形輪　小川豫一

羽衣　中泉　泉　青木保太郎　小川豫一　小川悅司　高橋勇造

白髮　落合孫平

口まね　武田勝造

船辨慶　岡本寅司　青木保太郎　武田勝造　小川悅司　高橋勇造

以上の諸氏にてつとめらる

◉彈琴　○印は師匠

松竹梅　特別會員◉秋元豐稻子(本名はつ子)　佐谷ゑい子

一八段調　三味線◉小幡總賀子(創立員)　淺川あい子　堤八重子

一長唄勸進帳　全人　横笛　全上　高橋勇造君

一皇國の榮　特別會員◉篠原美和賀子(本名巳和子)　飯島より子　大野はま子

一千代の詩

一吾妻獅子

三味線（●）樋口てる子　關根光子　佐藤松枝子　生駒菊野子　篠原美和賀子

（●）篠原美和賀子　樋口てる子　關根光子

右終り午後四時三十分閉會を告ぐ前夜來寒氣甚だし殊に朝來暴風にて非常の惡天候なりしにも係らず會員の出席者多く役員諸姉は午前九時より出席して式場の準備をなせり役員の出席は左の如し

相川副會長　三橋幹事　齋藤幹事　高草木幹事
相川幹事　本多評議員　正木評議員　今村評議員
相澤評議員

◎初會への寄附

一金五圓　高崎尙武會
一金壹圓　高草木又吉郞君
一金五拾錢　塚越はる江子
一金五拾錢　吉井きみ子



山形支會報告

●新年會

一月六日午後一時より山形市千歳公園臨松閣に於て同支會々員相互の禮を兼ね講師諸君を招待して新年會を開きたり席定まるや岩本副會長より新年の言葉あり次で講師佐々木森作君は有益なる講話せられ右終りて一同晩餐を共にし次で福引等の餘興あり何れも觀をつくして散會せり

新潟支會報告

●三月例會

三月十一日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て例會を開く出席者約四十名講師及演題左の如し

一水道の話　長井千尋君
一滿洲風俗談　小林忍君
一ヴイクトリヤ女皇の幼時に就て　高田せん子

寄送書

◎耳科衛生　全一冊　菊判七十六頁　定價卅五錢

今井亥三松編述

發行所　東京市本郷區春木町三丁目　南江堂支店

耳の病ひは人々の未だ左程注意を惹かざるものゝ如

くなるが通常三人中一耳は多少聽機を損し居ることを發見すとは專門家の言はるゝ處にて眼病より却て多數なりといふ而も聽覺を損すれば聾となり啞となり或は痴呆に陷る恐れざるべけんや本書は其要を摘み簡に就きて編述したるものにして芳賀博士の序文金杉博士の題字あり座右一本を備ふべき恰當の良書なり、



○本會入會者

○田中れい子紹介
●小石川區春日町八、大岡方　通常會員　駒木根ふじ子
○日本橋平山てる子紹介
●神田區雉子町二十三　通常會員　尾崎つや子
○牛込小川孝子紹介
●本所區柳原町三ノ二十九　通常會員　藤井すゞ子
○千葉關野秀子紹介
●千葉縣安房郡保田町　通常會員　川名茂登子
○諏訪なみ子紹介
●埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町　賛成員　本田千八郎君

◎高崎支會

●前橋市北曲輪町三號官舍　通常會員　佐藤はな子
●高崎市本町百二十九　通常會員　藤田菊枝子
○幹事相川はま子紹介
●高崎市田町　通常會員　吉井きみ子
●仝市本町　通常會員　高橋いと子
●仝市新町　通常會員　鶴田ひさ子
○特贊士谷金次君紹介
●仝市中紺屋町　通常會員　中島よね子
○秋元はつ子紹介
●仝市相生町　特別會員　吉村ゑい子

◎茨城支會

○幹事中佐芙すゑ子紹介
●茨城縣水戸市　通常會員　安藤とら子
●仝　通常會員　清つた子

◎新潟支會

○幹事古閑初瀨子紹介
●新潟市旭町一番町七十六　特別會員　志水はま子

〇會長竹山れつ子紹介

●新潟市住吉町四十四　特別會員　清水なみ子

〇評議員關やい子紹介

●新潟市柳川岸通一丁目廿三番戸　特別會員　齋藤あい子

〇幹事中村しげ子紹介

●新潟市大川前通十一番町　特別會員　家坂りやう子



〇轉居

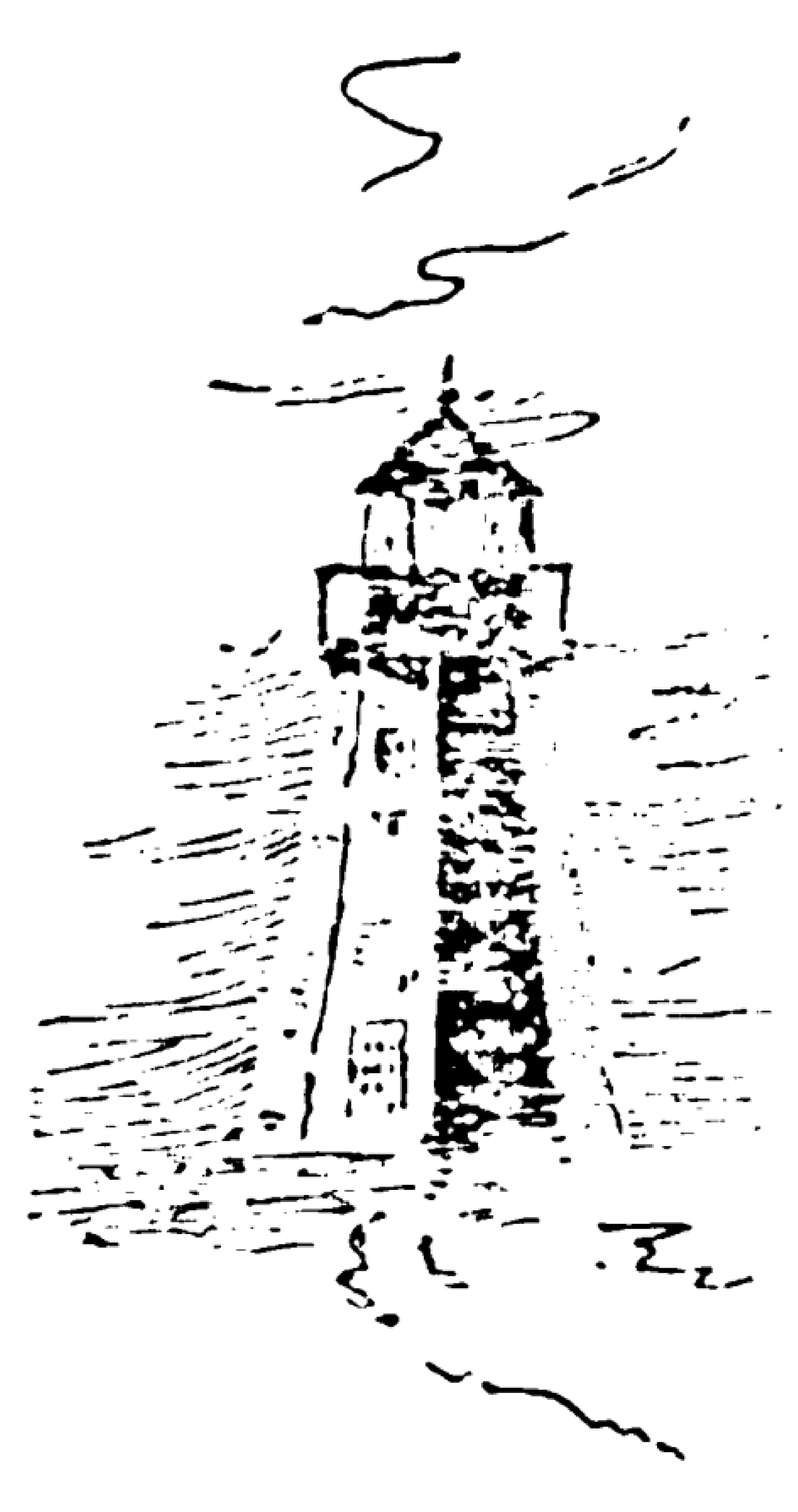
●福岡市荒戸四番丁二百二十一へ　小川仲明
●臺灣陸軍經理部澎湖島派出所宿舍へ　郡山やへ子
●岡山京内山下字石山十へ　伊藤敏子
●千葉縣安房郡保田町二十一へ　關野秀子
●小倉市米町百二十一へ　金竹まさ子
●靜岡縣榛原郡相良町須々木へ　名波なを子
●長野縣下伊那郡飯田主税町へ　井上ぎん子
●高知縣高知市鄕四十四聯隊衛生病院へ　莊司駒子
●下谷區櫻木町二十九へ　巖崎琴子
●米國行　山口豐子
●鎌倉長谷吉田別宅へ　中濱千代子
●北豐島郡巣鴨村字上駒込一四六へ　庭井都子
●麻布區京兵衛町二ノ四十四へ　木部よつ子
●麴町區道田町四ノ二十五へ　和田いれ子
●麻布區京兵衛町二ノ八十八へ　西郷信子
●赤坂區青山北町七ノ一へ　土屋もと子



〇交換寄贈雜誌（二十分）

●日本赤十字　京橋區築地二ノ廿一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村字常盤松御料地内　帝國婦人協會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會
●衛生協會雜誌　日本橋區永久町河岸八號地　日本橋區衛生協會
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文館
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京市教育會雜誌　東京市役所内　東京市教育會
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品商事務所
●なでしこ　麴町下二番丁三十七　大日本女學會
●家庭新聞　熊本市坪井町百五十八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麴町區元園町一ノ二十七　由分社
●家庭の栞　新潟縣女子師範學校内　新潟縣女子教育會
●家庭　福岡市船町十七　家庭新聞社
●大日本婦人教育會雜誌　麴町永田町一ノ十九　大日本婦人教育會
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
●產婆新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷町六五　產婆新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大阪市西區江戶堀下通三ノ三十六　藥石新報社

●經濟新報　麹町區永田町二ノ七十三　經濟新報編輯部
●婦人世界　大阪市南區末吉橋通四ノ六十三　頌華婦人會
●婦女新聞　牛込區五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人新報　赤坂區榎坂町五　婦人新報社
●婦人とこども　本郷區女子高等師範學校內　フレーベル會
●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手ノ母　大阪市北區西野田新家西ノ町番外三二五　工手ノ母新聞社
●交通世界　埼玉縣浦和町字九三五　交通協會
●衛生報知　私立神戸市衛生會
●越佐教育雜誌社　新潟市東仲通一番町二二七　越佐教育雜誌社
●衛生談話　麹町區飯田町四ノ卅一　通俗衛生茶話會
●英學生　神田區駿河臺北甲賀町十　東西社
●衛生新報　下谷區池の端仲町十九　衛生新報社
●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●草藥新聞　大阪市南區心齋橋筋二ノ百七　草藥新聞社
●産科婦人雜誌　日本橋區浜町三ノ七　日本産科婦人協會
●埼玉衛生雜誌　埼玉縣北足立郡浦和町二三三五　埼玉衛生新誌社
●産婆雜誌　埼玉縣入間郡高萩村森田新田五　産婆雜誌社
●明行會叢誌　芝區三田綱町一　明行會叢誌出版部
●教育公報　神田區一ツ橋通町　帝國教育會
●明治の婦人　麹町區下二番町卅一　明治の婦人社
●明治の家庭　牛込區納戸町五　明治の家庭社
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室內　日本神經學會
●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
●品性論　本郷區駒込內片町十　內外出版協會



消化新藥

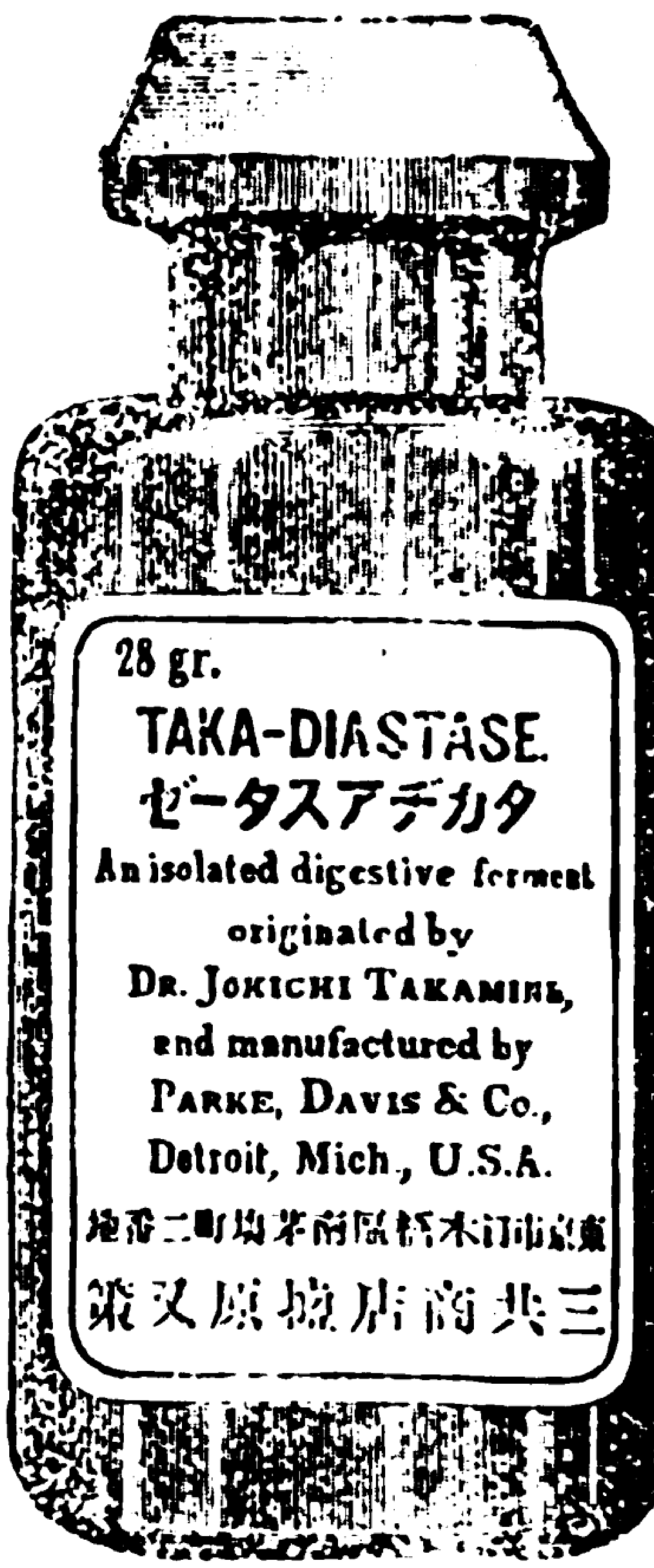
工學博士高峰讓吉氏に由て發見せる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる

摸造品

數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意

本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す

東京市南茅場町二番地 三共商店藥品部



滋養新劑 グリコナール錠

▲本劑は佐伯矩氏が北里博士研究室に於て牡蠣の滋養成分に就て研究創製せられ多くの醫學者より其効顯卓絶なるを承認せられたる最新滋養劑なり

肺病

其他衰弱性の病者は本劑の服用に由て速に其體力を恢復し元氣亢進す

本劑の說明書は御申込次第無代郵送す

發賣元 東京市南茅場町二 三共商店藥品部

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢 通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

明治廿九年四月創立

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の神益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上豫前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に由るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に勵行すべし●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

醫學博士金杉英五郎先生題辭
醫學博士芳賀榮次郎先生序文

耳科衛生

今井亥三松先生編述

全壹册

洋裝本緞美麗金文字入
精密圖五個插入　紙質上等
正價金參拾五錢〇郵税金四錢

世ニ衛生ヲ論スル著書多シト雖モ、耳科衛生ヲ説クモノ無キハ甚タ遺憾ナリ、況ンヤ我邦耳科學ノ幼稚ナルニ於テヲヤ、本書ハ編者ガ日常不幸ナル耳病者ニ接シ、其得タル處ノ經驗ヲ骨子ト爲シ、耳ヲ保護シ耳病ヲ未發ニ豫防スルニ當リ、注意スベキ要項ハ細大漏サズ、頗ル周到着實、極メテ平易懇篤ニ博採記述セル空前ノ好書ニシテ、世ノ人士一本ヲ坐右ニ備ヘナバ衛生上裨益スル事、蓋シ鮮少ニアラサルベシ

耳科衛生内容綱目は

第一章聴器の構造及機能◎第二章耳病と諸般の關係△耳病と年齡の關係△耳病と男女の關係△耳病と時候の關係△耳病の發する時期△耳病と職業の關係△耳病と遺傳關係附聾◎第三章耳病の徴候△聴力障害△耳鳴△耳漏△耳性眩暈△耳痛◎第四章初生兒耳の衛生△初生兒耳の保護△初生兒耳の防護△初生兒強音劇動の危險△初生兒聴計ノ注意△幼兒耵聹蓄積の害△初生兒入浴時の注意△初生兒哺乳時の注意△初生兒耳部撲打及接吻の禍害◎第五章兒童の衛生△學齡兒童の聴力△耳內異物の危險△耳內創傷の結果△游泳、海水浴、入浴の注意◎第六章一般耳の衛生△耳內創傷△耳病と飲酒△耳病と喫煙△耳病と藥劑△耳の洗滌法△聴器の人工補助◎第七章耳病と他疾患△傳染病と耳病△眼病と耳病△鼻及鼻咽腔疾患と耳病△齒牙疾患と耳病△消化器疾患と耳病△泌尿疾患と耳病△梅毒と耳病◎第八章耳病の注意

發行所　東京市本郷區春木町三丁目（電話下谷五七番）　南江堂書店

賣捌所　東京　南江堂、丸善〇名古屋　丸善〇大阪　丸善、松村〇廣島　田中、積善館

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衞生會徽章規程

第一條　大日本婦人衞生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑檜箱入送費九錢）

六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中徳三郎

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十九年三月十九日印刷
明治三十九年三月二十日發行（毎月一回二十日發行）